

**「第六次竜王町総合計画」の策定に係る
竜王町中学生アンケート調査
結果報告書**

令和2年10月
竜王町

【目 次】

I. 調査について	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象	1
3. 報告書の見方	1
II. 調査結果	2
問1: あなたの学年は次のどれですか。	2
問2: あなたの性別はどちらですか。	2
問3: あなたのお住まいの地区は次のどれですか。	2
問4: あなたは、竜王町が好きですか。	3
問4-1: 好きな理由・好きではない理由は何ですか。	4
問5: 竜王町に住んでいて自慢できるものは何ですか。	5
問6: あなたは、これからも竜王町に住み続けたいですか。	8
問6-1: 住み続けたい理由は何ですか。	11
問6-2: 竜王町を離れる場合、いつ頃、竜王町に戻ってきたいと思いますか。	13
問6-3: 住み続けたくない理由は何ですか。	14
問7: あなたは、竜王町に住み続けるために、または一度離れたとしても戻ってくるために必要なことは何だと思いますか。	16
問8: 将来、就きたいと考えている職業や仕事はどのような内容ですか。	17
問9: あなたは地域活動に参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。	20
問10: 下記の中で、自分たちが地域の中で特に取り組んでいかなければならないことは何だと思いますか。	22
問11: 今後、あなたは竜王町がどんなまちになればよいと思いますか。	25
問12: 今後、竜王町が力を入れるべきことはどんなことだと思いますか。	28
問13: あなたは、竜王町が積極的に進めている次の事業について知っていますか。	31
問14: あなたは、どのようなまちをめざしますか。また、実現するためにはどうしたらよいと思いますか。	32
III. 調査結果からの考察	33
1. 竜王町について(問4～問5)	33
2. 定住意向について(問6)	33
3. 就きたい職業・仕事について(問8)	33
4. 地域活動について(問9～問10)	34
5. 竜王町の将来像について(問11～問12)	34

Ⅰ．調査について

1．調査の目的

平成 23 年 4 月から第五次竜王町総合計画に基づく町政運営に取り組んでおり、将来のまちの姿として掲げた「“ひと” 育ち みんなで煌めく 交竜の郷」の実現に向け、様々な施策を進めていますが、令和 2 年度の計画期間終了を控え、これからの 10 年を見据えた第六次竜王町総合計画の策定を進めているところです。

この計画の策定にあたって、次世代の地域の担い手である中学生の意見や視点を計画に反映するため中学生アンケートを実施します。

また、現在の第五次竜王町総合計画策定時においても同様のアンケートを実施しており、10 年経って中学生の意識変化を考察します。

2．調査対象

竜王町に在住の中学生の皆さんを対象に調査を実施し、294 通の回答をいただきました。

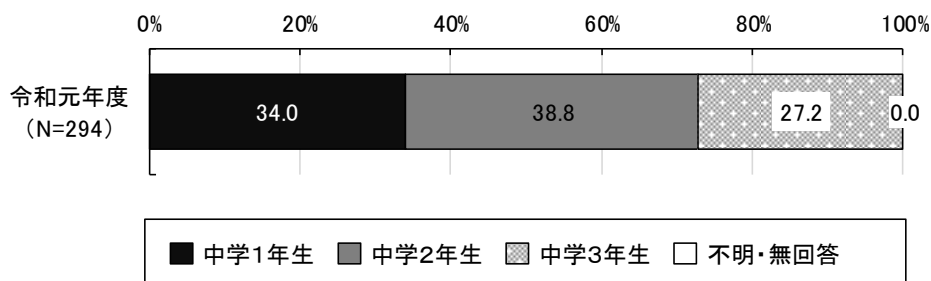
3．報告書の見方

- 回答結果は、有効回答数（アンケートに答えてくれた人の数）に対する、回答数の割合について、小数点第 2 位を四捨五入して小数点第 1 位までを表示しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- グラフ中の「不明・無回答」は、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件にあたる人）を示しています。
- 質問文の末尾に記されている（SA）は単数回答の設問、（MA）は複数回答の設問を表します。
- 平成 21 年度調査、平成 26 年度調査とは、平成 21 年、平成 26 年に行った「第五次竜王町総合計画」の策定および見直しに係る竜王町中学生アンケート調査のことです。

II. 調査結果

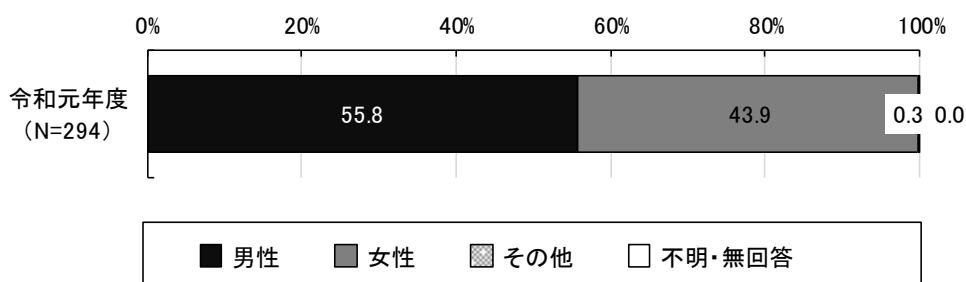
問1：あなたの学年は次のどれですか。（SA）

「中学1年生」が34.0%、「中学2年生」が38.8%、「中学3年生」が27.2%となっています。



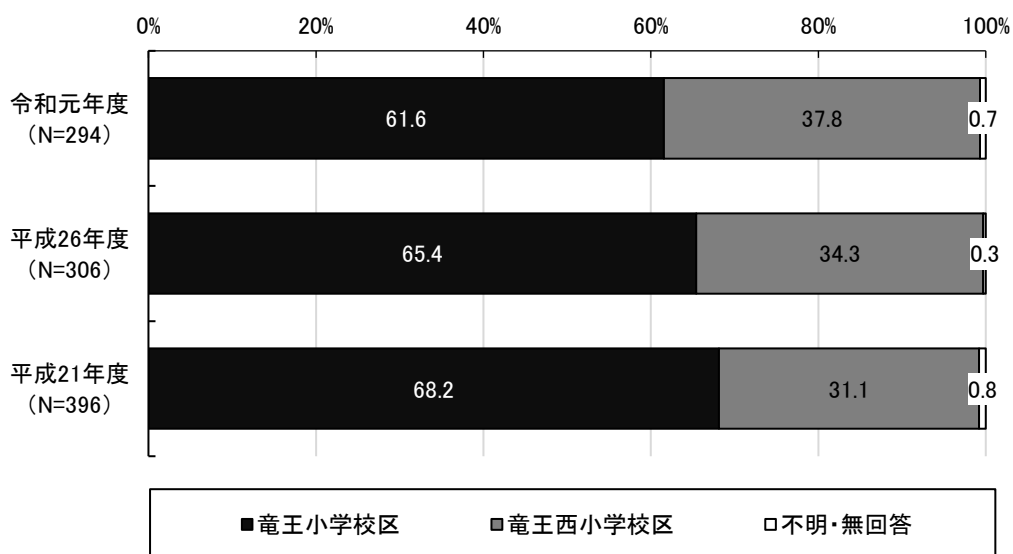
問2：あなたの性別はどちらですか。（SA）

「男性」が55.8%、「女性」が43.9%となっています。



問3：あなたのお住まいの地区は次のどれですか。（SA）

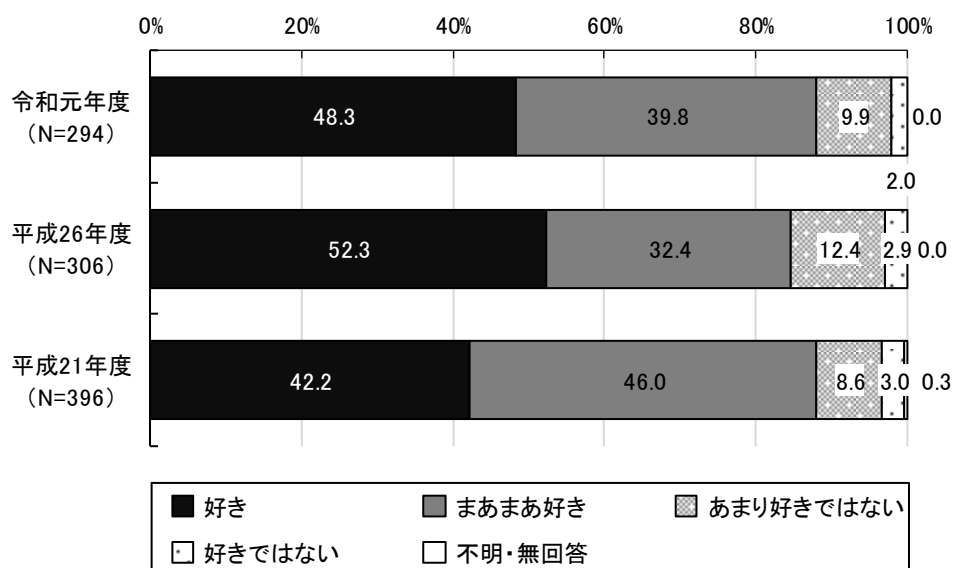
「竜王小学校区」が61.6%、「竜王西小学校区」が37.8%となっています。



問4：あなたは、竜王町が好きですか。（SA）

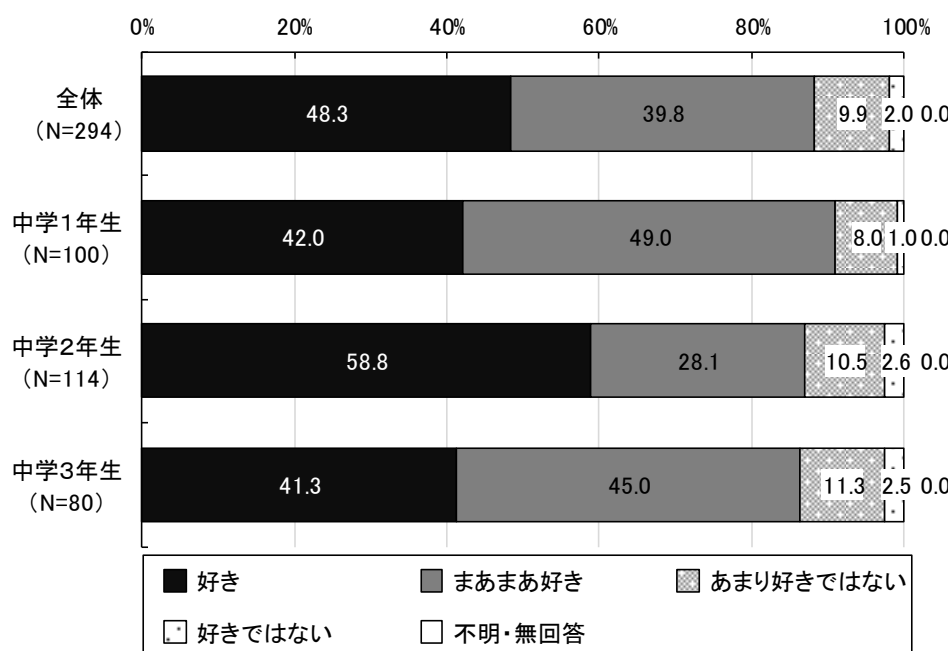
「好き」が48.3%と最も高く、次いで「まあまあ好き」が39.8%、「あまり好きではない」が9.9%となっています。

平成26年度調査と比較すると、今回調査ではわずかに「好き」と「まあまあ好き」の合計が増加しています。



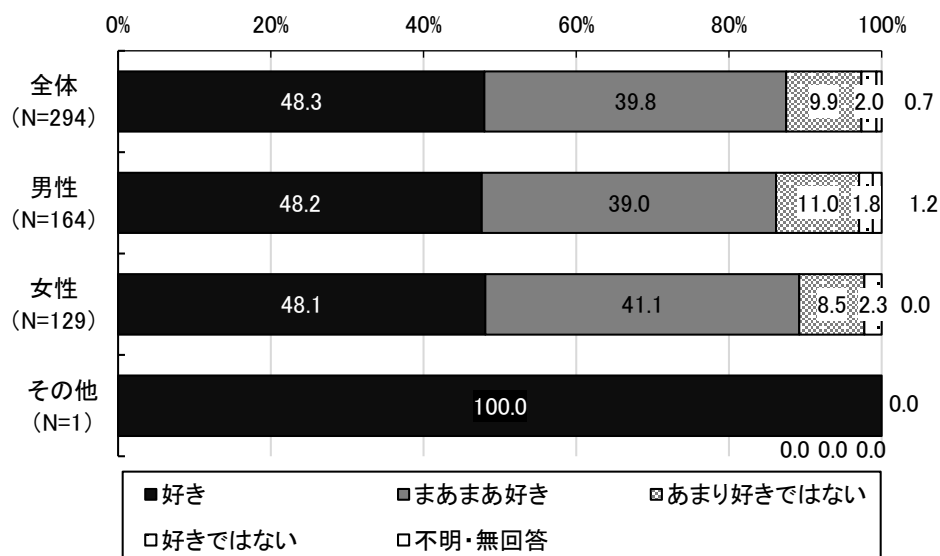
問4×学年別

学年別にみると、全学年で「好き」と「まあまあ好き」の合計は8割以上となっています。



■問4×性別

性別にみると、『男性』『女性』ともに「好き」「まあまあ好き」の合計が8割を超えています。



問4－1：好きな理由・好きではない理由は何ですか。（問4で「好き」「まあまあ好き」と回答した人は「好きな理由」を、「あまり好きではない」「好きではない」と回答した人は「好きではない理由」を書いてください。）

◇好きな理由(主なもの)

好きな理由
自然が豊か、緑が多い
人が優しい、親切、挨拶をしてくれる、地域のつながりがある
静か、落ち着いている、のどか、田舎、住みやすい
安心・安全、平和、事故や事件が少ない、治安が良い、災害が少ない
アウトレットがある
空気がきれい、星がきれい
食べ物（果物、野菜、近江牛等）がおいしい、農作物が豊富、特産品がある

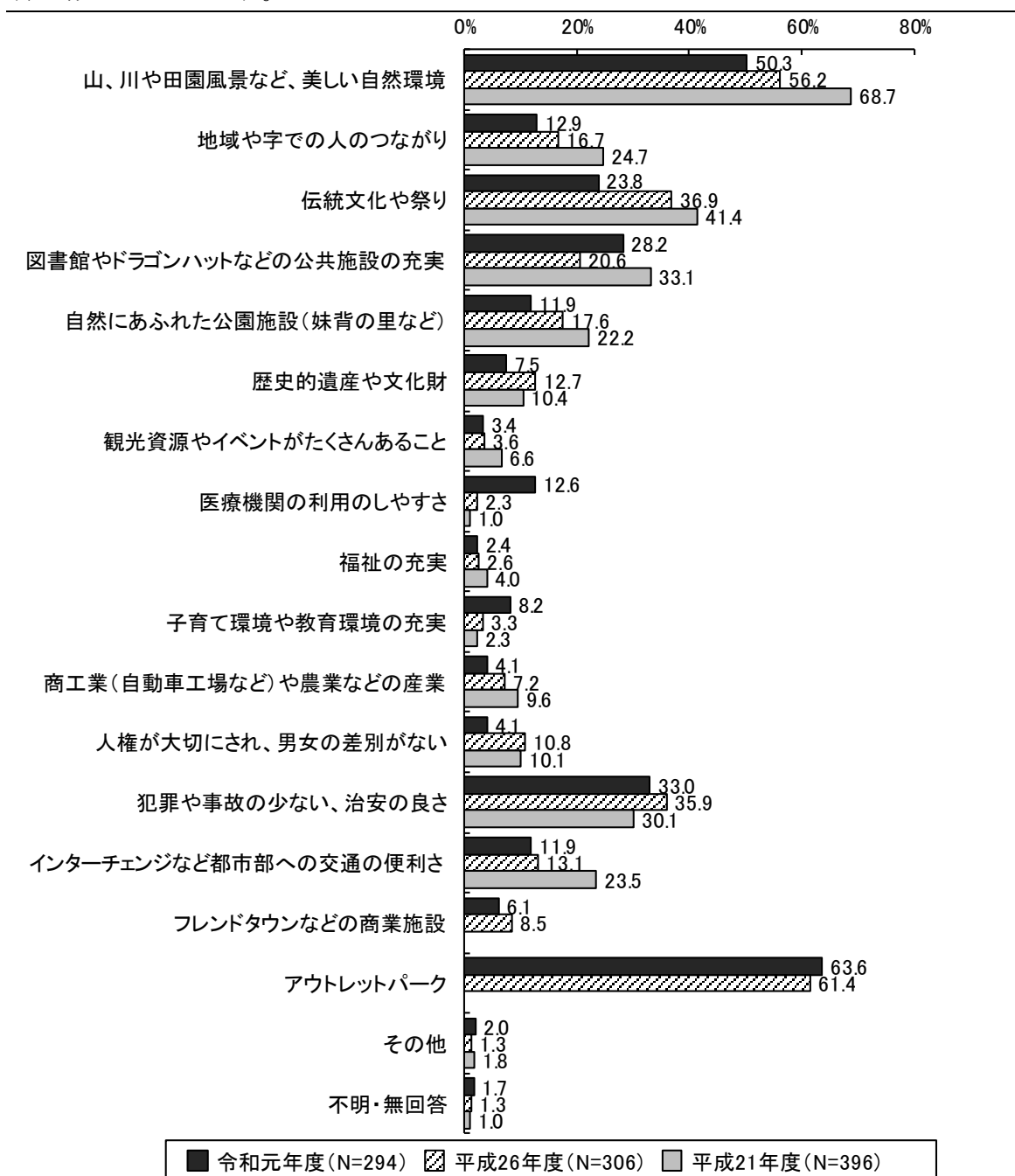
◇好きではない理由(主なもの)

好きではない理由
駅が遠い、駅がない、駅がなく通学に不便
お店や飲食店が少ない
交通手段が少ない、交通の便が悪い
遊ぶ場所がない

問5：竜王町に住んでいて自慢できるものは何ですか。（MA）

「アウトレットパーク」が63.6%と最も高く、次いで「山、川や田園風景など、美しい自然環境」が50.3%、「犯罪や事故の少ない、治安の良さ」が33.0%となっています。

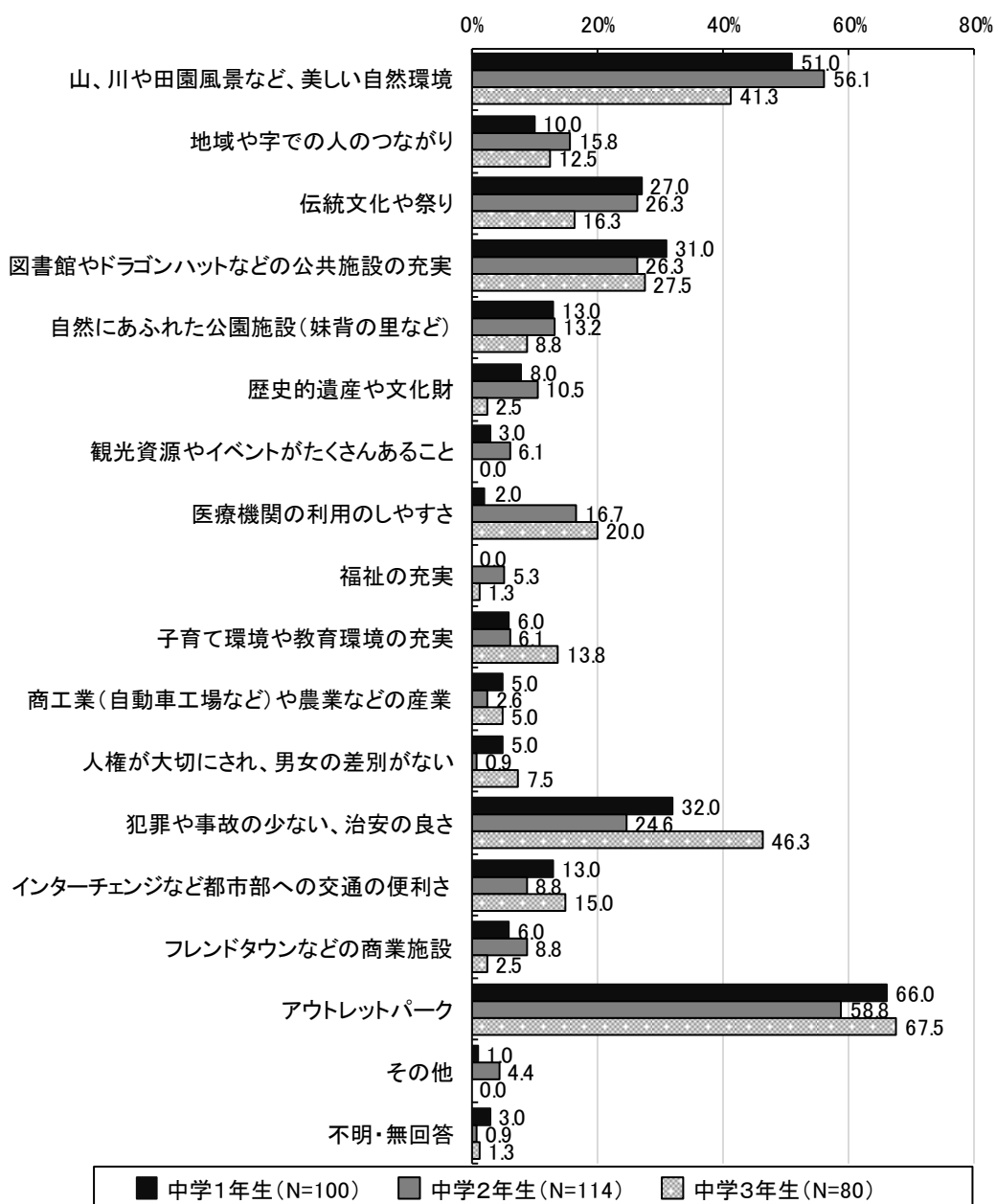
平成26年度調査と比較すると、「図書館やドラゴンハットなどの公共施設の充実」「医療機関の利用のしやすさ」「子育て環境や教育環境の充実」「アウトレットパーク」では割合が増加しています。一方、「山、川や田園風景など、美しい自然環境」「地域や字での人のつながり」「伝統文化や祭り」「自然にあふれた公園施設（妹背の里など）」「商工業（自動車工場など）や農業などの産業」などは年々割合が減少しています。



※「フレンドタウンなどの商業施設」「アウトレットパーク」については今回調査および平成26年度調査のみの項目

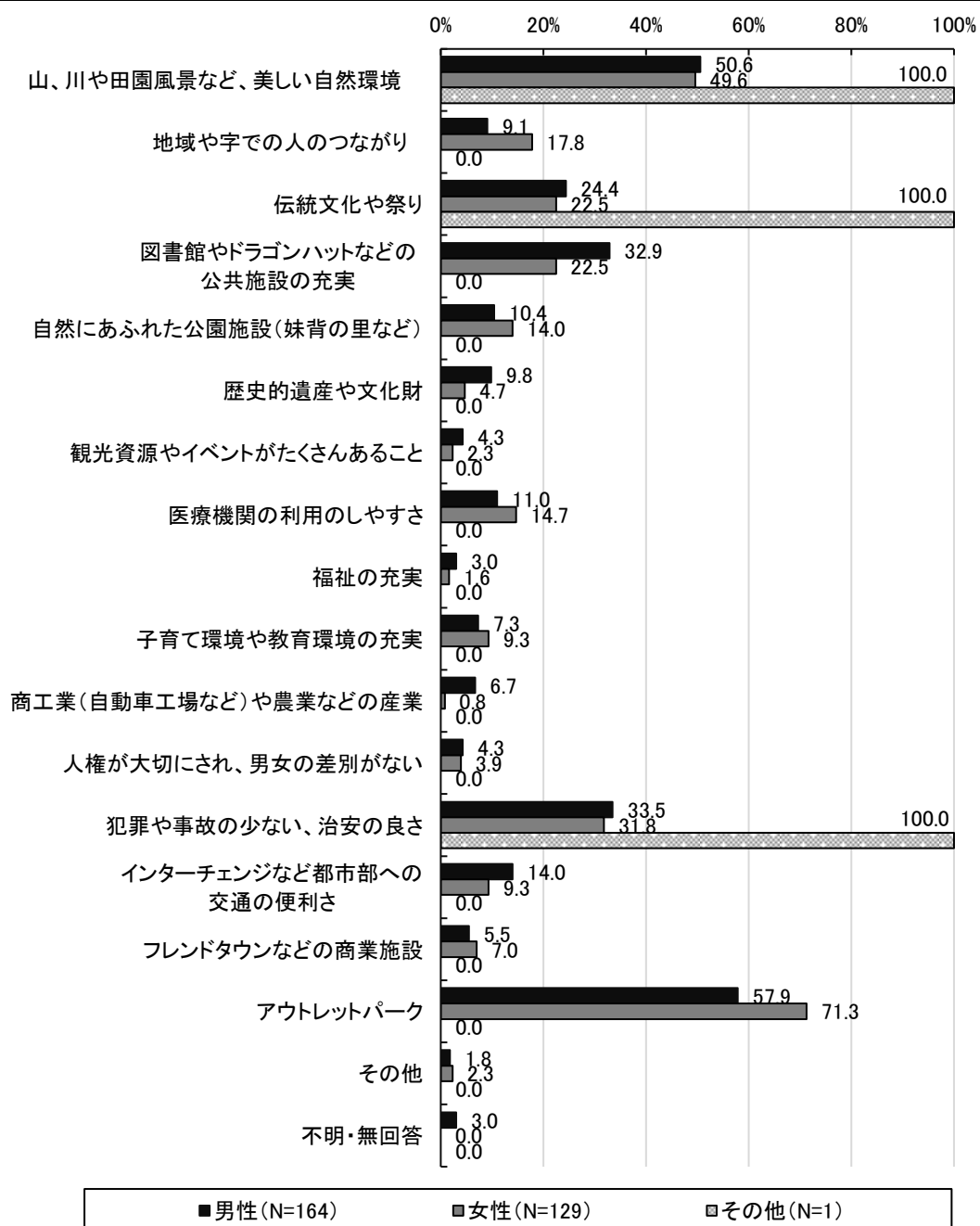
■問5×学年別

学年別にみると、全学年で「アウトレットパーク」の割合が最も高くなっています。



■問5×性別

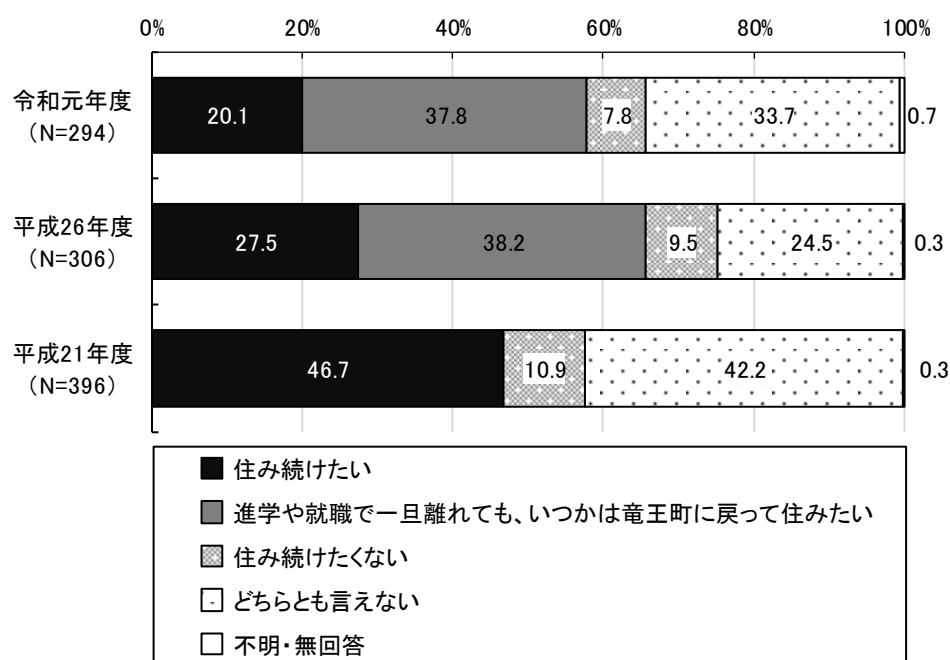
性別にみると、『男性』『女性』ともに「アウトレットパーク」の割合が最も高くなっています。



問6：あなたは、これからも竜王町に住み続けたいですか。（SA）

「進学や就職で一旦離れても、いつかは竜王町に戻って住みたい」が 37.8%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」が 33.7%、「住み続けたい」が 20.1%となっています。

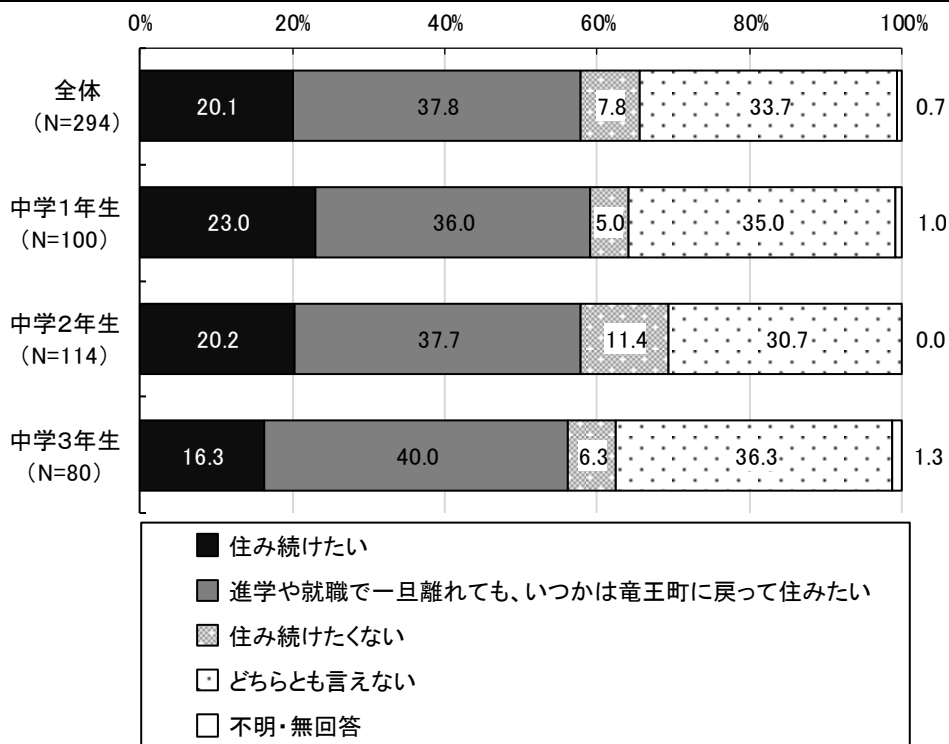
平成 26 年度調査と比較すると、「住み続けたい」「進学や就職で一旦離れても、いつかは竜王町に戻って住みたい」「住み続けたくない」の割合が減少しています。



※「進学や就職で一旦離れても、いつかは竜王町に戻って住みたい」については
今回調査および平成 26 年度調査のみの項目

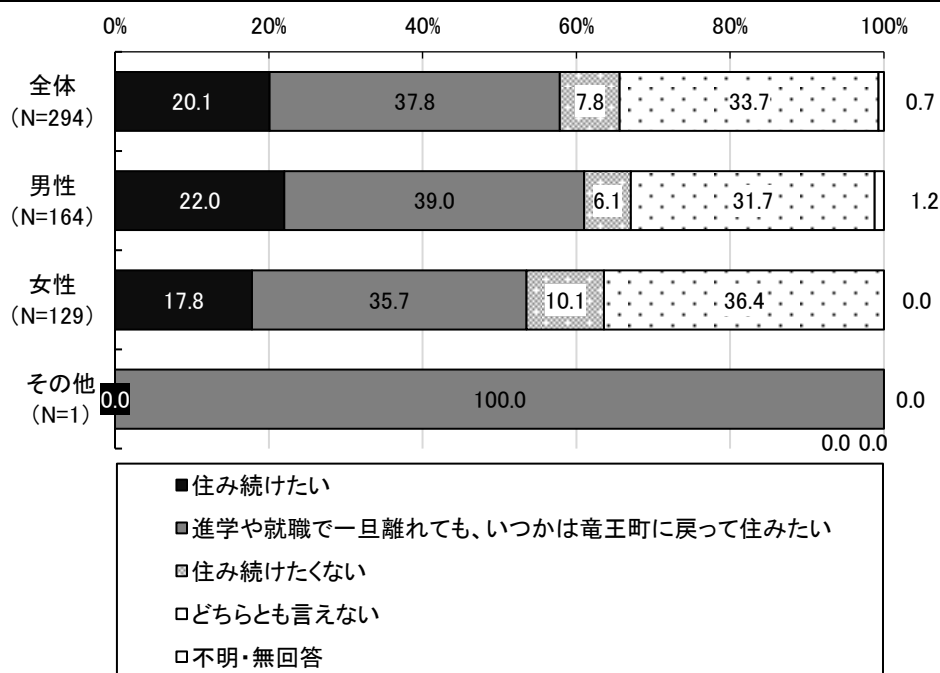
■問6×学年別

学年別にみると、学年が上がるにつれて「住み続けたい」の割合が減少しており、「進学や就職で一旦離れても、いつかは竜王町に戻って住みたい」の割合は学年が上がるにつれて増加しています。



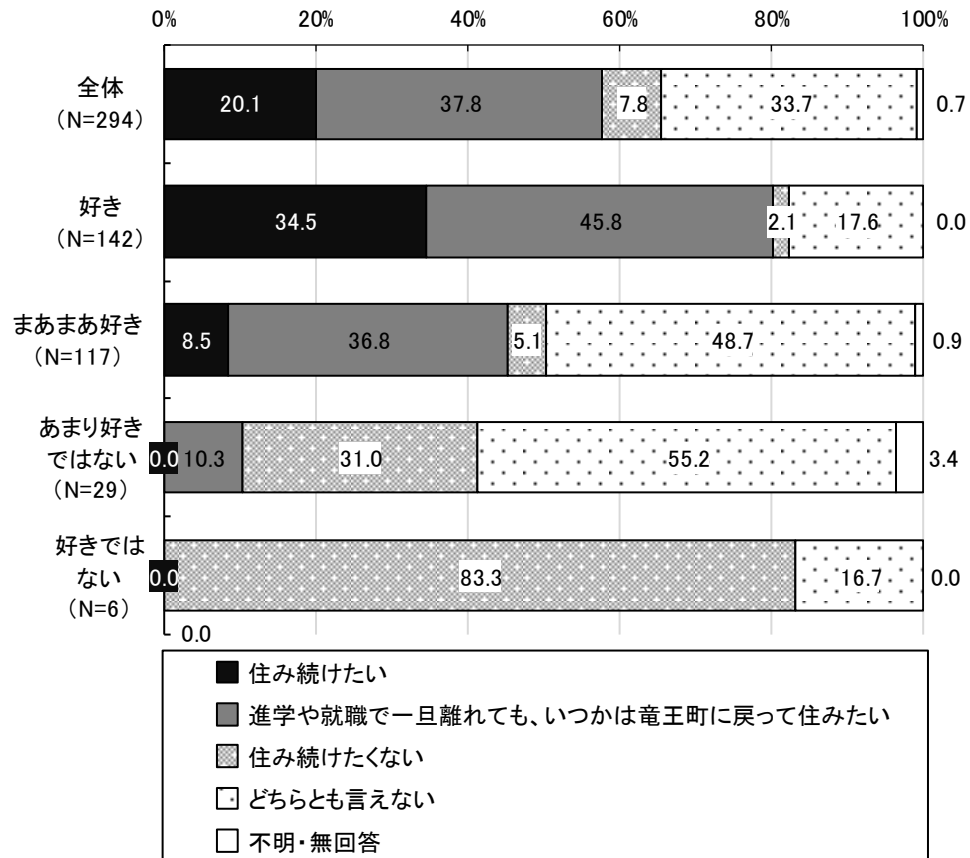
■問6×性別

性別にみると、「住み続けたい」「進学や就職で一旦離れても、いつかは竜王町に戻って住みたい」では『男性』の方が高く、「住み続けたくない」では『女性』の方が高くなっています。



■問6×愛着度別

愛着度別にみると、『好き』では「進学や就職で一旦離れても、いつかは竜王町に戻って住みたい」、『まあまあ好き』『あまり好きではない』では「どちらとも言えない」、『好きではない』では「住み続けたくない」の割合が最も高くなっています。

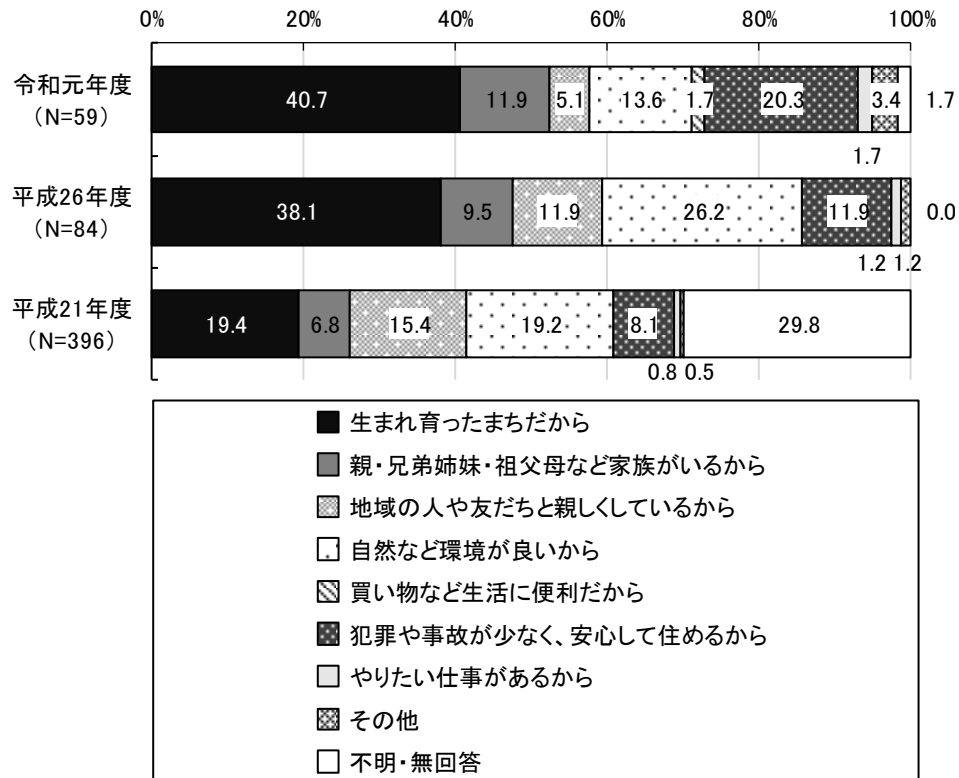


問6で「住み続けたい」と回答した人にうかがいます。

問6－1：住み続けたい理由は何ですか。（SA）

「生まれ育ったまちだから」が40.7%と最も高く、次いで「犯罪や事故が少なく、安心して住めるから」が20.3%、「自然など環境が良いから」が13.6%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「犯罪や事故が少なく、安心して住めるから」の割合が増加しており、「地域の人や友だちと親しくしているから」「自然など環境が良いから」が減少しています。

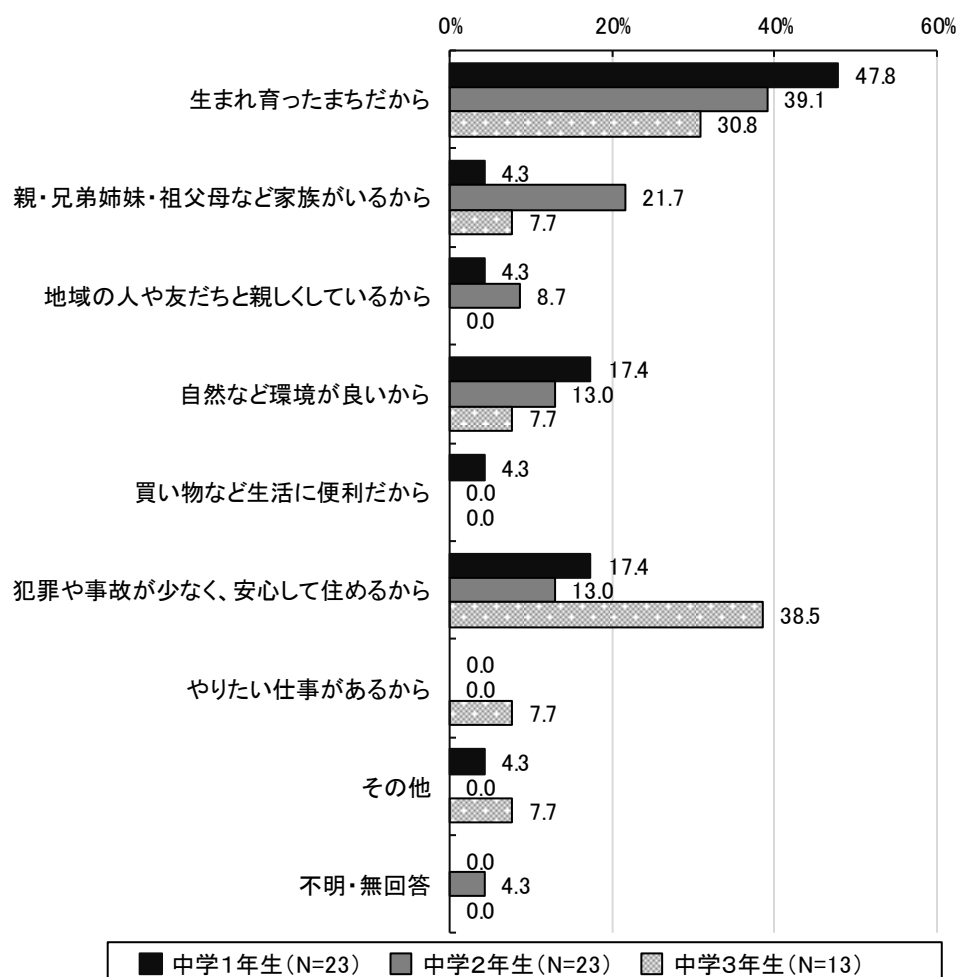


※「買い物など生活に便利だから」については
今回調査および平成26年度調査のみの項目

■問6－1×学年別

学年別にみると、『中学1年生』『中学2年生』では「生まれ育ったまちだから」が最も高く、『中学3年生』では「犯罪や事故が少なく、安心して住めるから」が最も高くなっています。

学年が上がるにつれて「生まれ育ったまちだから」「自然などの環境が良いから」の割合は減少しています。

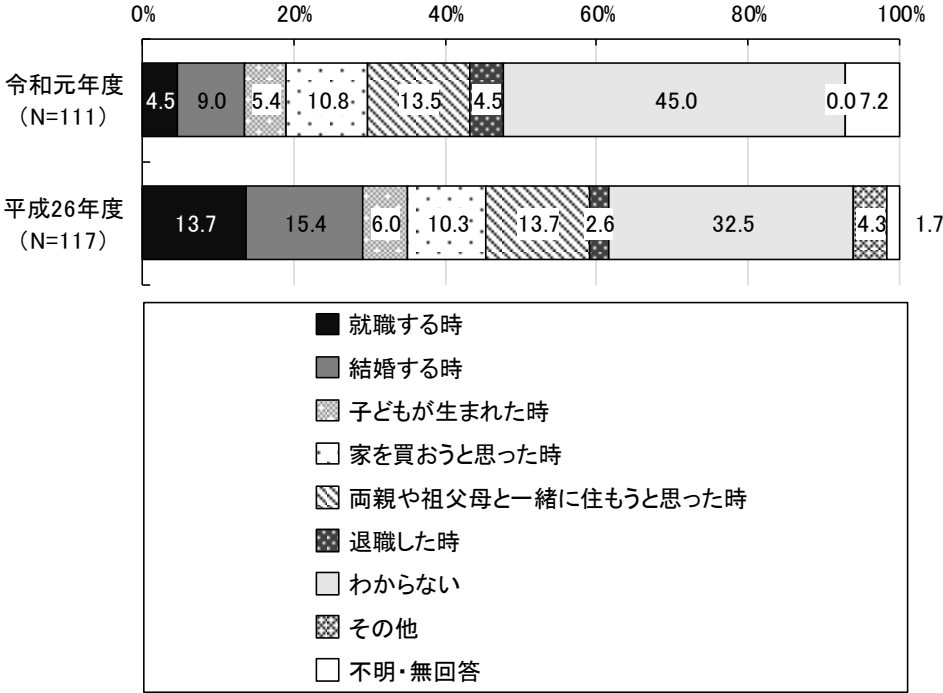


問6で「進学や就職で一旦離れても、いつかは竜王町に戻って住みたい」と回答した人にうかがいます。

問6-2：竜王町を離れる場合、いつ頃、竜王町に戻ってきたいと思いますか。
(SA)

「わからない」が45.0%と最も高く、次いで「両親や祖父母と一緒に住もうと思った時」が13.5%、「家を買おうと思った時」が10.8%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「就職する時」「結婚する時」の割合が減少しています。

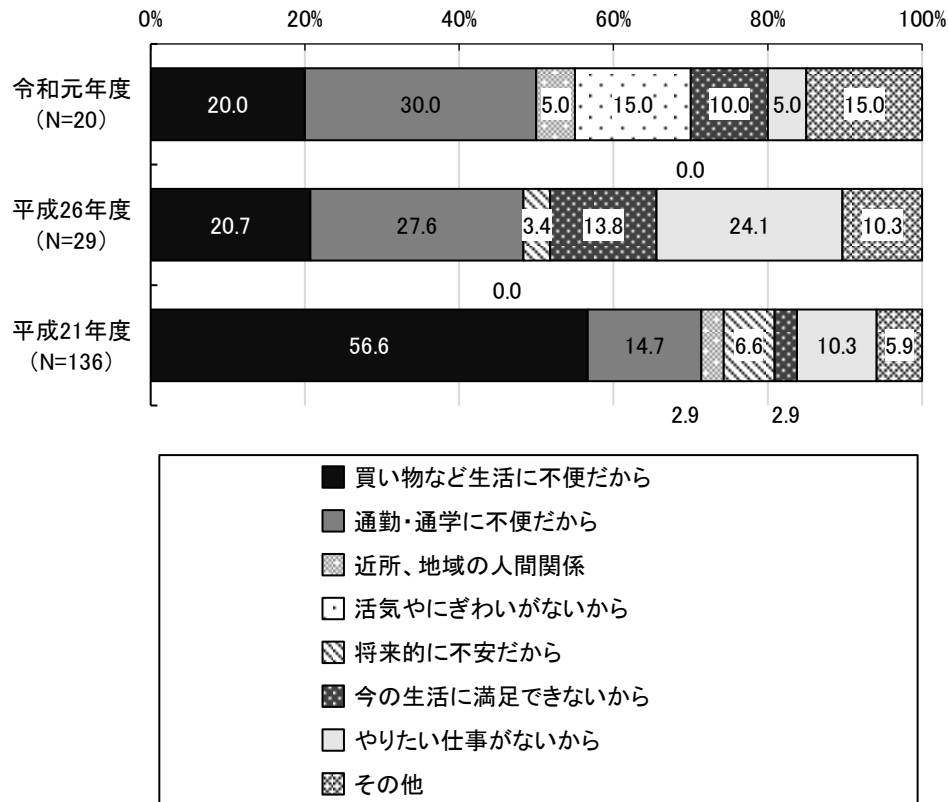


問6で「住み続けたくない」と回答した人にうかがいます。

問6-3：住み続けたくない理由は何ですか。（SA）

「通勤・通学に不便だから」が30.0%と最も高く、次いで「買い物など生活に不便だから」が20.0%、「活気やにぎわいがないから」が15.0%となっています。

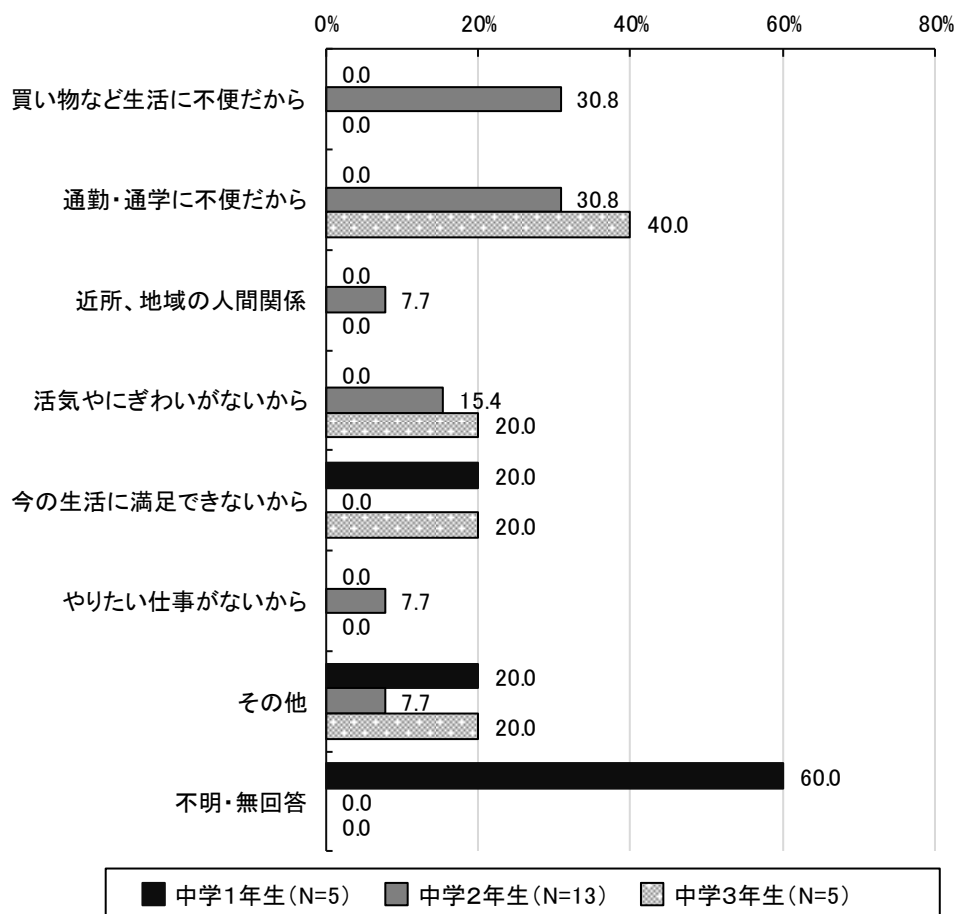
平成26年度調査と比較すると、「やりたい仕事がないから」の割合は減少しています。



※「活気やにぎわいがないから」については今回調査のみの項目
「将来的に不安だから」については、平成21年度調査および
平成26年度調査のみの項目
「不明・無回答」を除いています

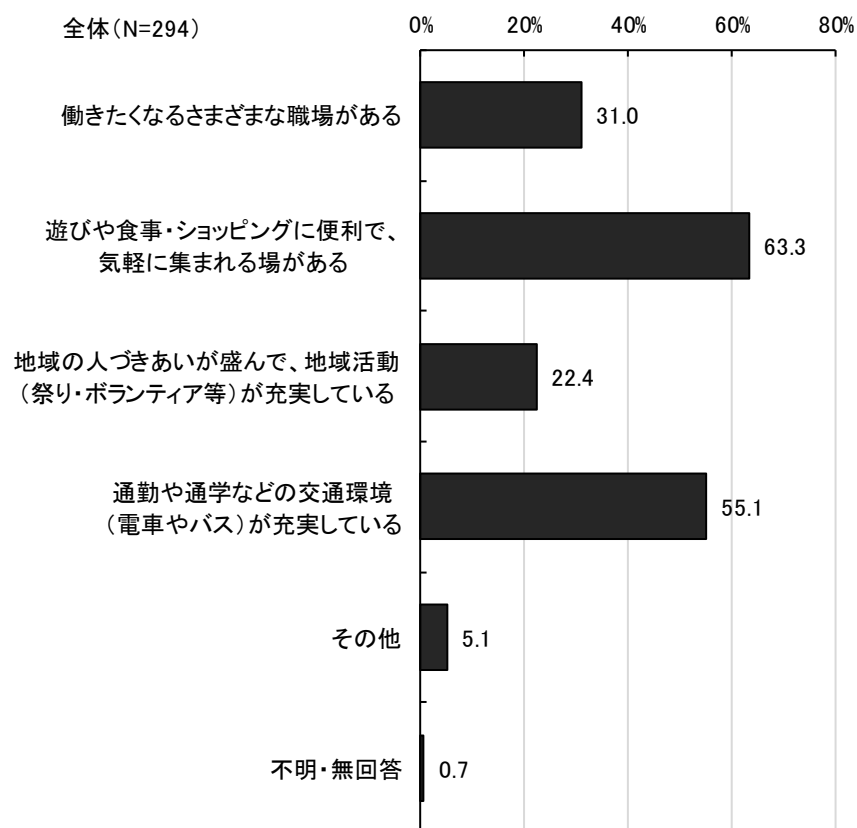
■問6－3×学年別

学年別にみると、『中学3年生』では「通勤・通学に不便だから」「活気やにぎわいがないから」の割合が他の学年より高くなっています。



**問7：あなたは、竜王町に住み続けるために、または一度離れたとしても戻って
くるために必要なことは何だと思いますか。（MA）**

「遊びや食事・ショッピングに便利で、気軽に集まれる場がある」が63.3%と最も高く、次いで「通勤や通学などの交通環境（電車やバス）が充実している」が55.1%、「働きたくなるさまざまな職場がある」が31.0%となっています。

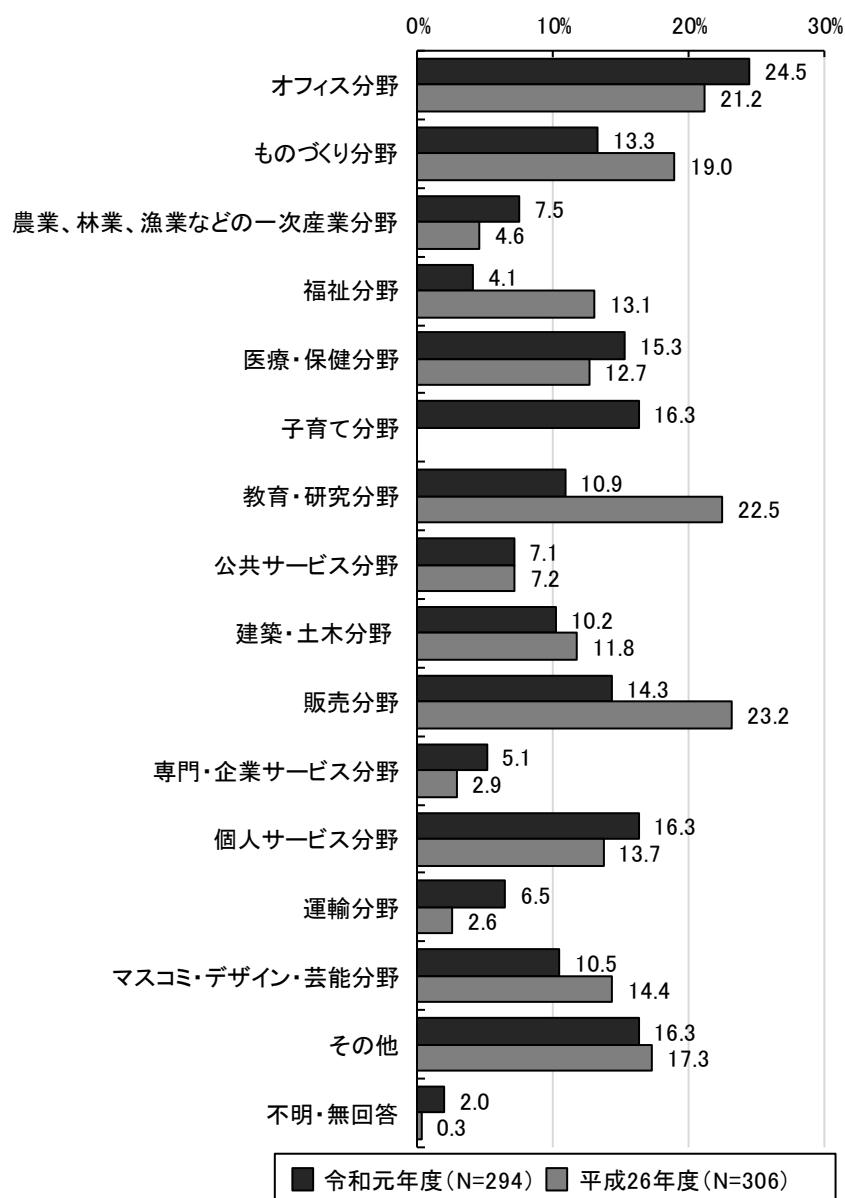


※本問は、今回調査のみ

問8：将来、就きたいと考えている職業や仕事はどのような内容ですか。（MA）

「オフィス分野」が24.5%と最も高く、次いで「子育て分野」「個人サービス分野」がともに16.3%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「ものづくり分野」「福祉分野」「教育・研究分野」の割合は減少していますが、「オフィス分野」の割合は増加しています。



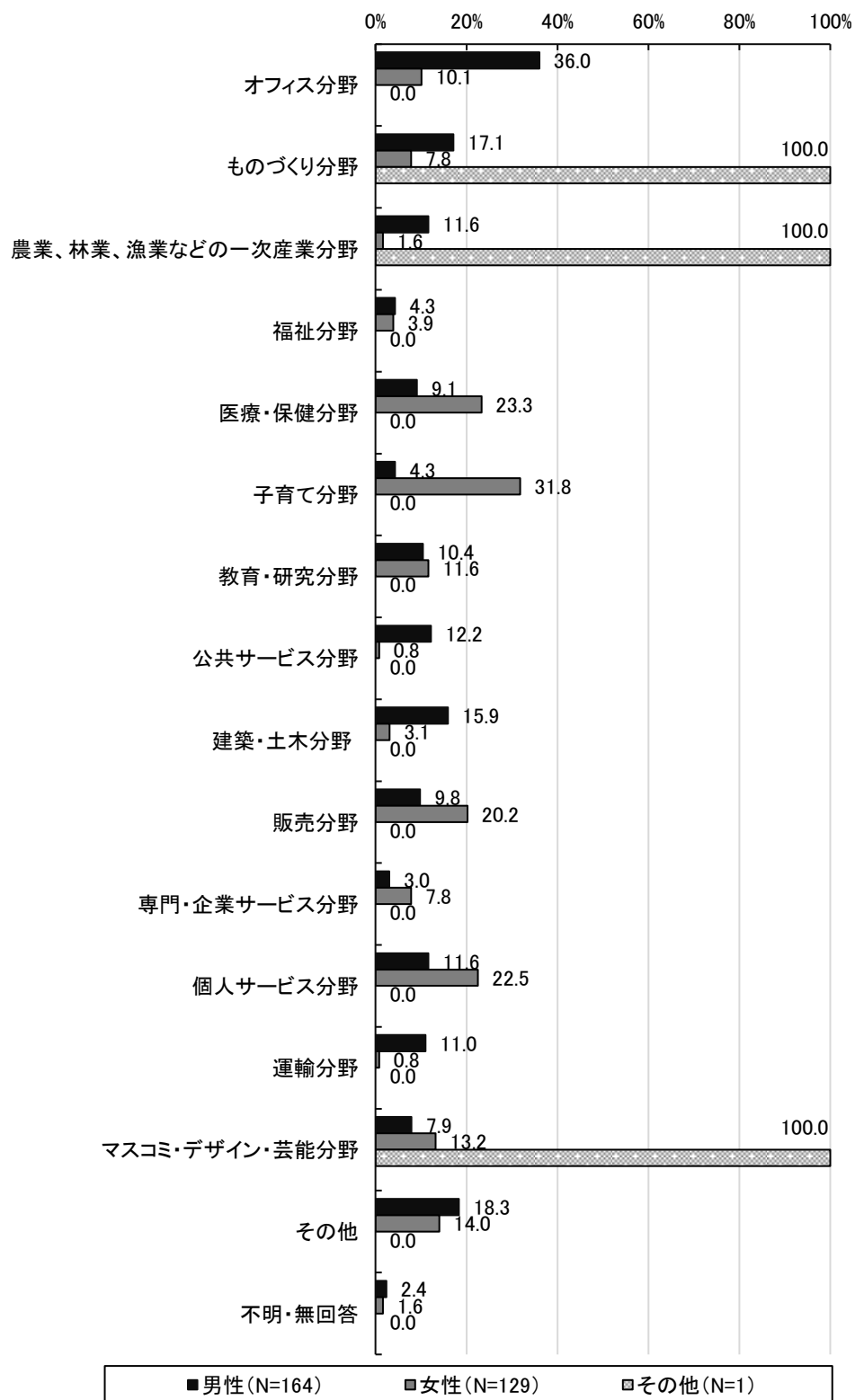
※本問は、今回調査および平成26年度調査のみ
子育て分野は今回調査のみの項目

■職業例

分野	職業例
オフィス分野	事務、経理、銀行員、システムエンジニア、プログラマーなど
ものづくり分野	組立、部品加工、食品製造など
農業、林業、漁業などの一次産業分野	農業、林業、漁業など
福祉分野	社会福祉士、介護福祉士など
医療・保健分野	医師、看護師、薬剤師、歯科技工士、栄養士、保健師など
子育て分野	保育士、ベビーシッターなど
教育・研究分野	教師、幼稚園教諭、研究者など
公共サービス分野	国家公務員、地方公務員、警察官など
建築・土木分野	建築技術者、土木技術者、大工、左官など
販売分野	会社の営業職、ショップの店員、販売員など
専門・企業サービス分野	弁護士、税理士、通訳者、ファイナンシャル・プランナーなど
個人サービス分野	飲食店関係、ツアーコンダクター、美容師、スポーツインストラクターなど
運輸分野	電車運転士、船員、自動車整備工、引越作業員など
マスコミ・デザイン・芸能分野	アナウンサー、新聞記者、芸能人、デザイナー、作家など

■問8×性別

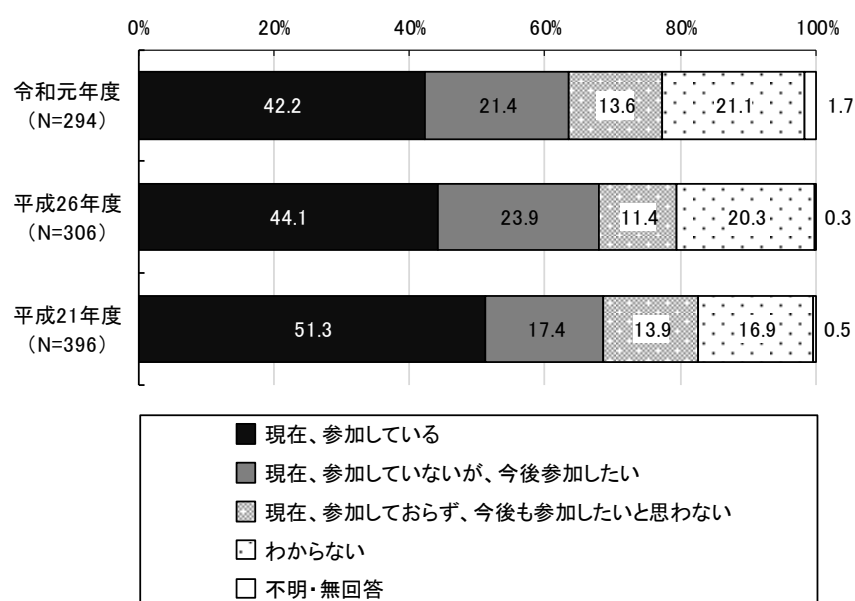
性別にみると、「その他」を除き、「オフィス分野」「ものづくり分野」「農業、林業、漁業などの一次産業分野」「公共サービス分野」「建築・土木分野」では『男性』の方が、「医療・保健分野」「子育て分野」「販売分野」「個人サービス分野」では『女性』の方が高くなっています。



問9：あなたは地域活動（子ども会や地域（字）でのレクリエーションや空き缶拾いなど学校以外で行う地域の活動やボランティア活動など）に参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。（SA）

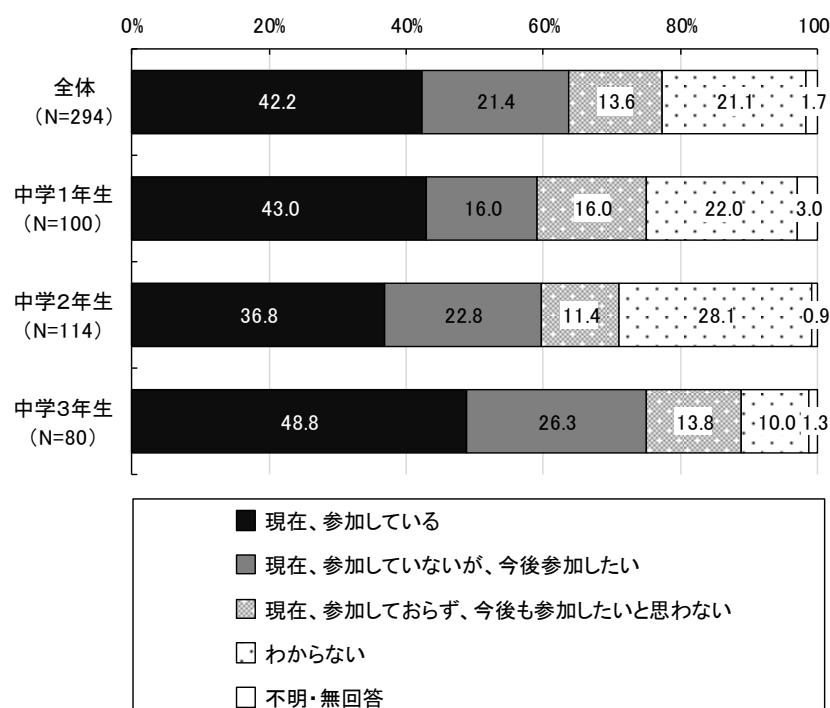
「現在、参加している」が42.2%と最も高く、次いで「現在、参加していないが、今後参加したい」が21.4%、「わからない」が21.1%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「現在、参加している」「現在、参加していないが、今後参加したい」の割合がわずかに減少しています。



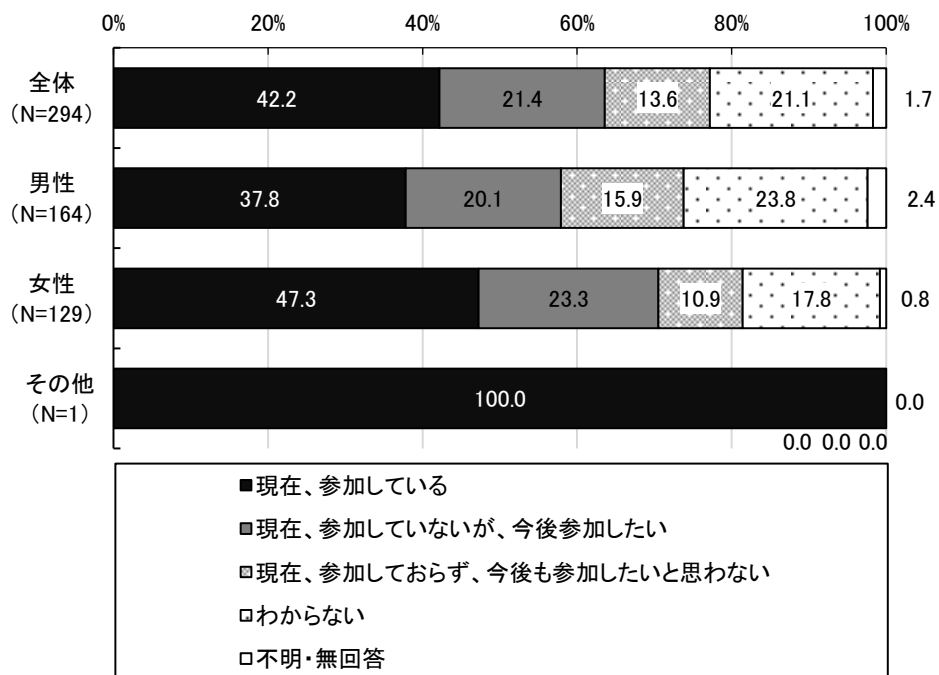
問9×学年別

学年別にみると、『中学3年生』では「現在、参加している」が最も高くなっています。



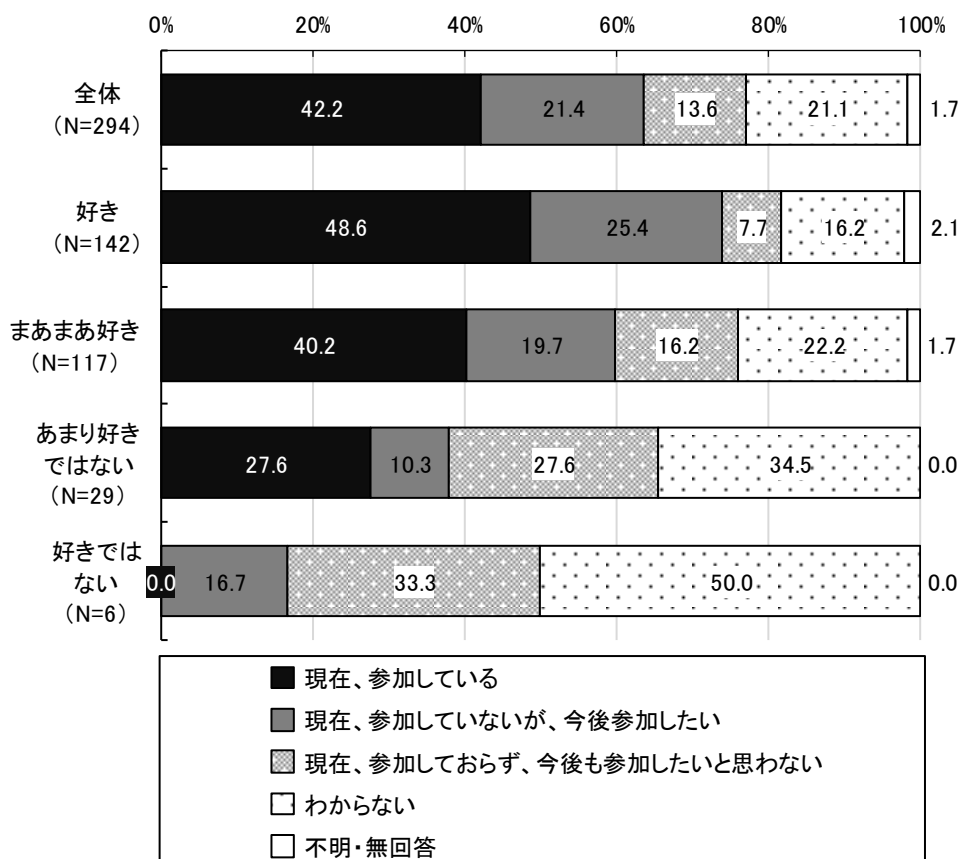
■問9×性別

性別にみると、「現在、参加している」では『女性』の方が高くなっています。



■問9×愛着度別

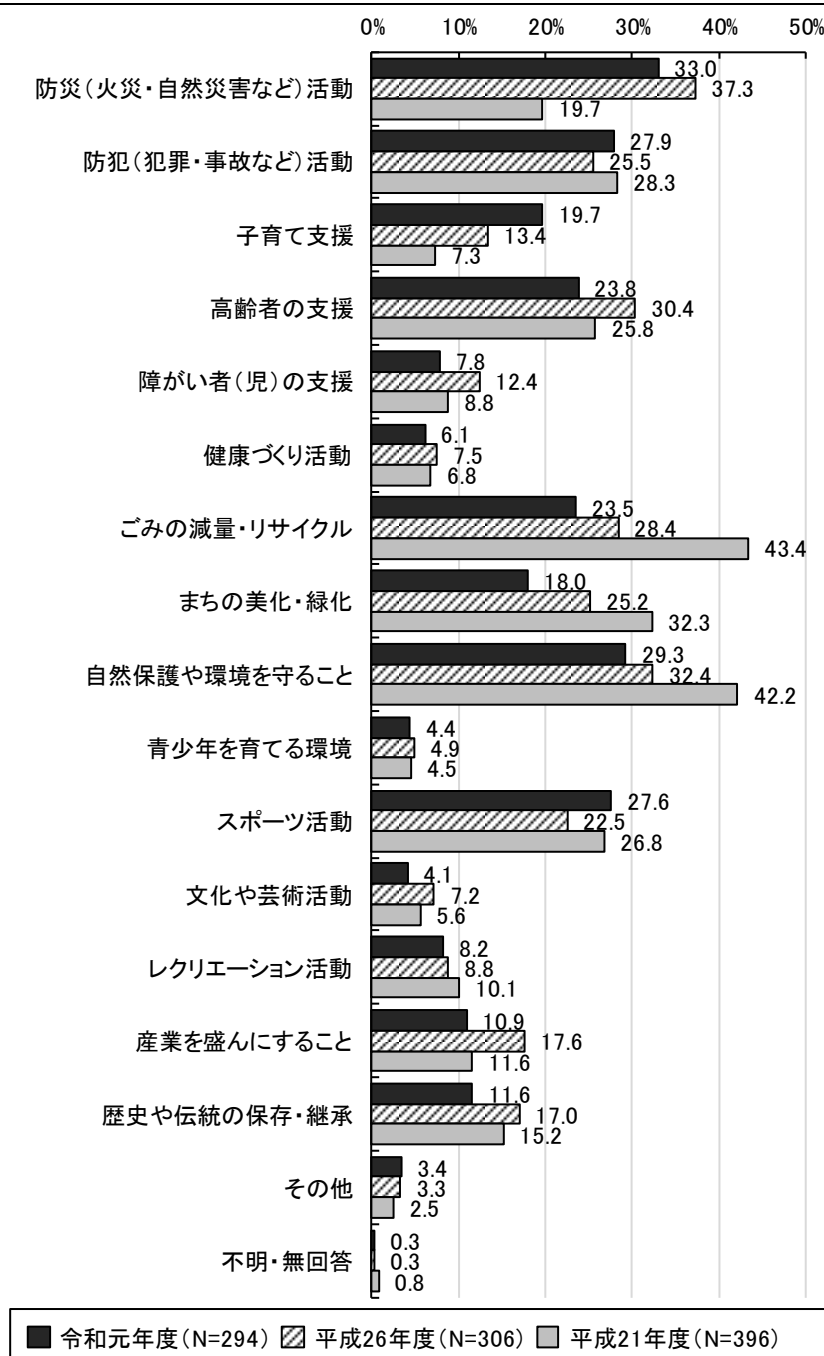
愛着度別にみると、愛着度が高いほど、「現在、参加している」の割合が高くなっています。



問10：自分たちが地域の中で特に取り組んでいかなければならないことは何だと思えますか。（MA）

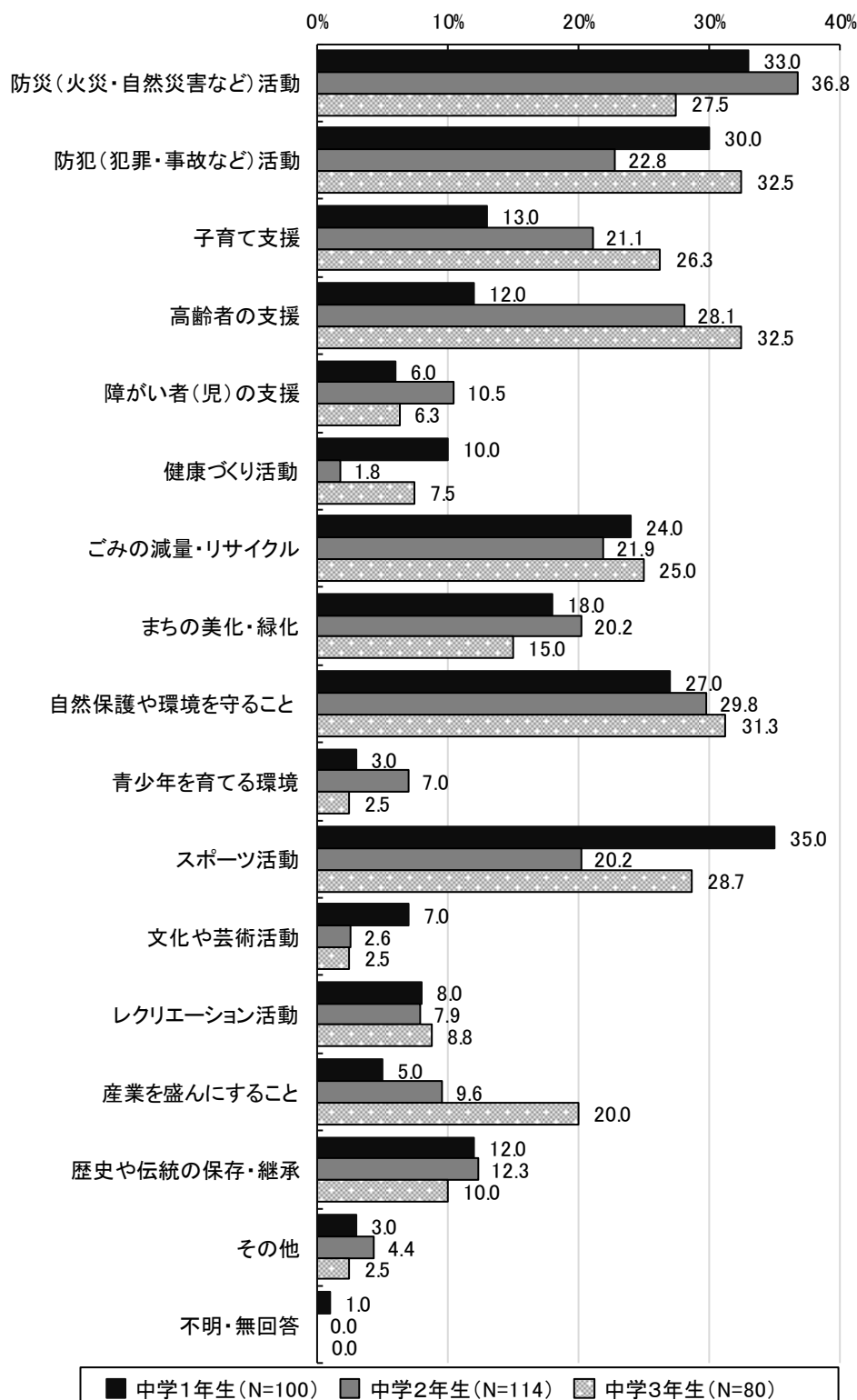
「防災（火災・自然災害など）活動」が33.0%と最も高く、次いで「自然保護や環境を守ること」が29.3%、「防犯（犯罪・事故など）活動」が27.9%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「子育て支援」の割合は増加していますが、「ごみの減量・リサイクル」「まちの美化・緑化」「自然保護や環境を守ること」の割合は減少しています。



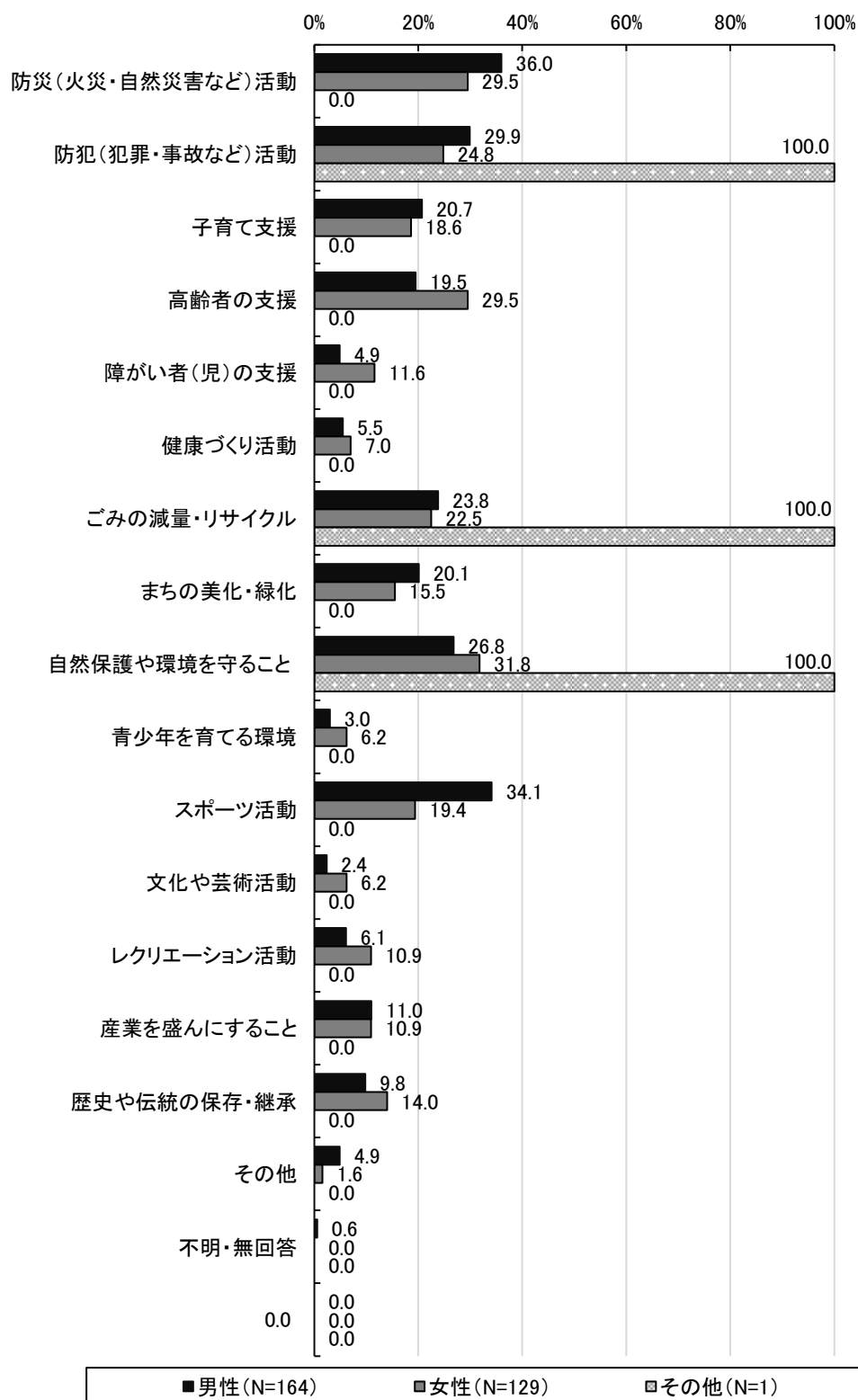
■問10×学年別

学年別にみると、「スポーツ活動」では『中学1年生』が、「防災（火災・自然災害など）活動」では『中学2年生』が、「子育て支援」「高齢者の支援」「産業を盛んにすること」では『中学3年生』が他の学年より高くなっています。



■問10×性別

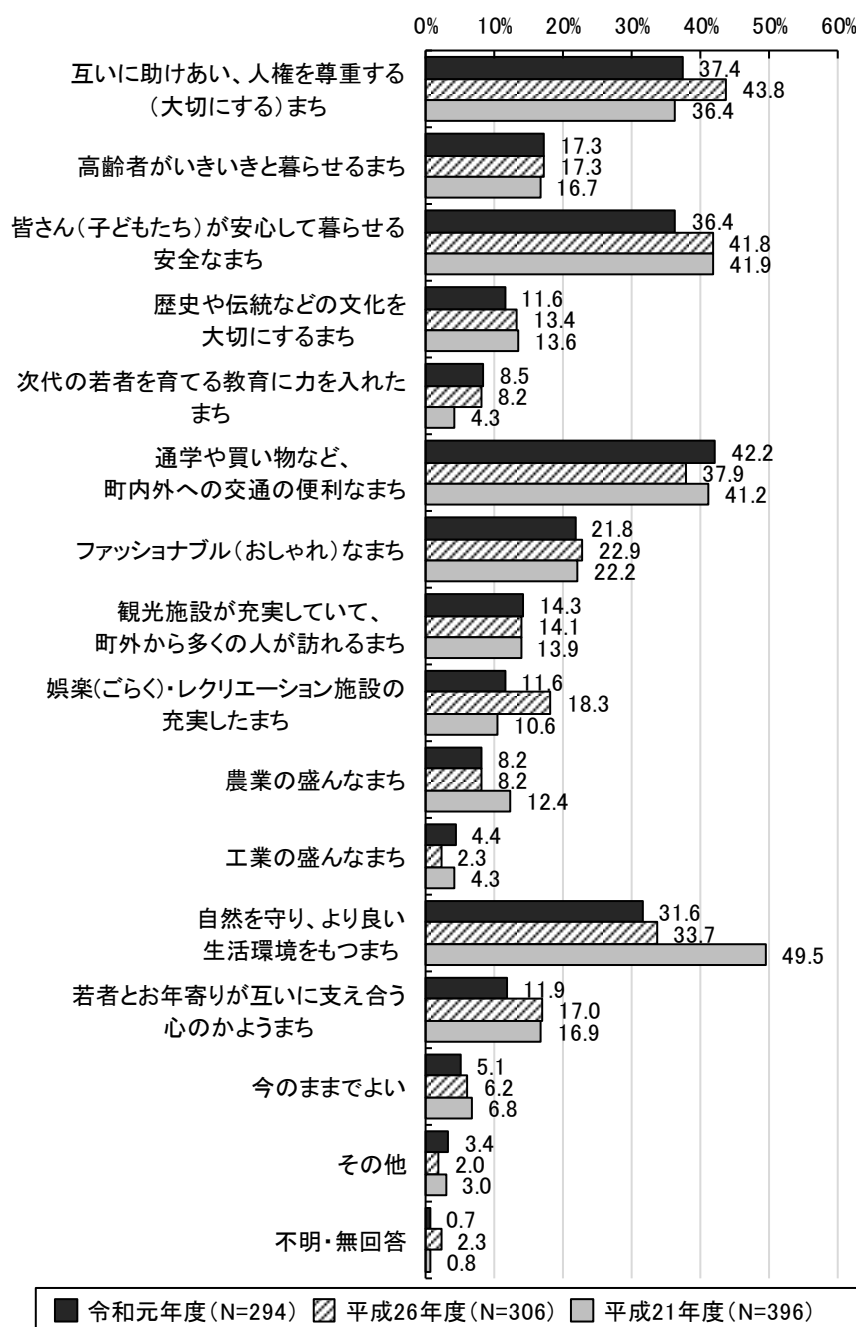
性別にみると、「防災（火災・自然災害など）活動」「防犯（犯罪・事故など）」「スポーツ活動」では『男性』の方が、「高齢者の支援」「障がい者（児）の支援」「自然保護や環境を守ること」では『女性』の方が高くなっています。



問11：今後、あなたは竜王町がどんなまちになればよいと思いますか。（MA）

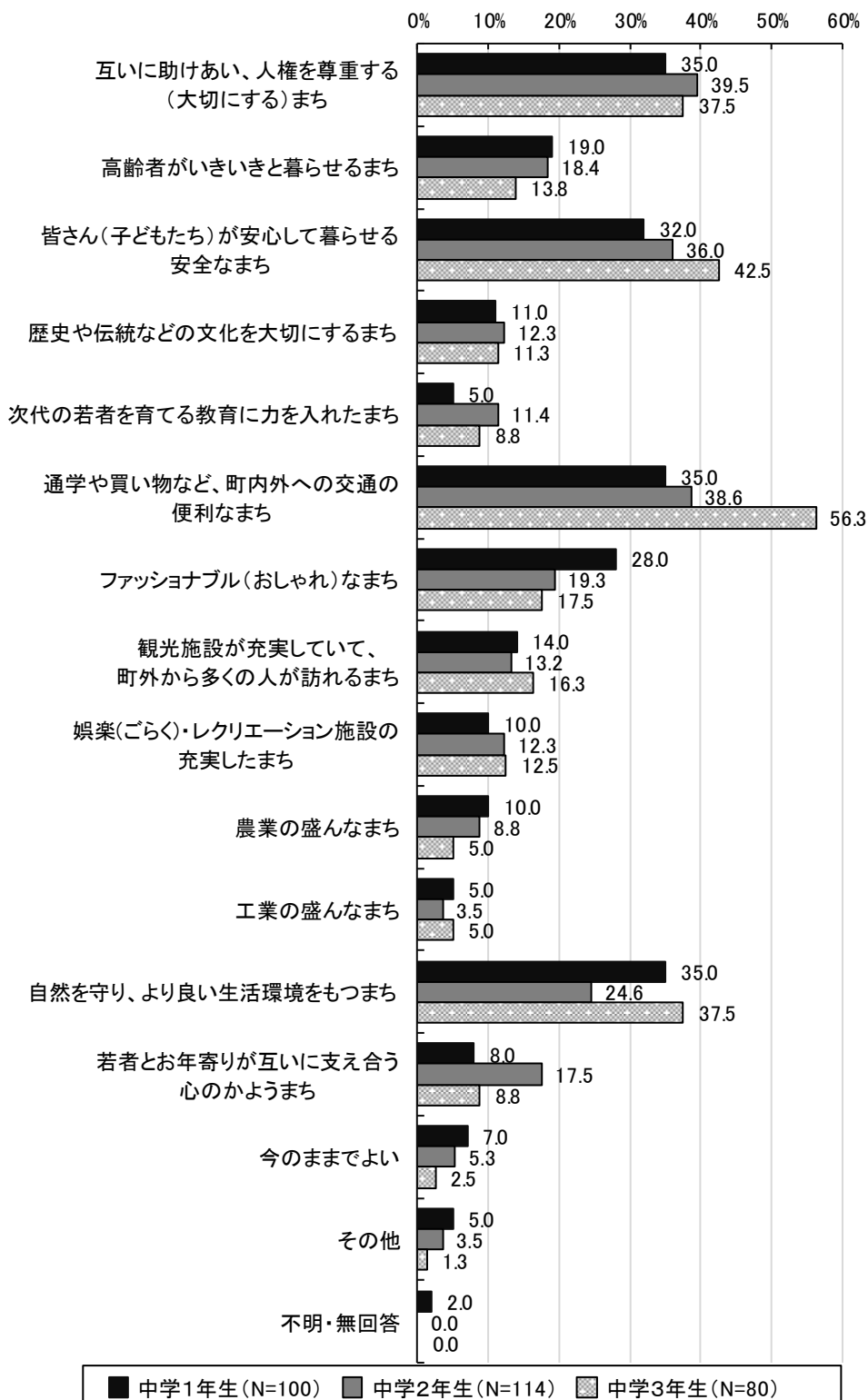
「通学や買い物など、町内外への交通の便利なまち」が42.2%と最も高く、次いで「互いに助けあい、人権を尊重する（大切にする）まち」が37.4%、「皆さん（子どもたち）が安心して暮らせる安全なまち」が36.4%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「通学や買い物など、町内外への交通の便利なまち」の割合が増加している一方で、「互いに助けあい、人権を尊重する（大切にする）まち」「皆さん（子どもたち）が安心して暮らせる安全なまち」の割合が減少しています。



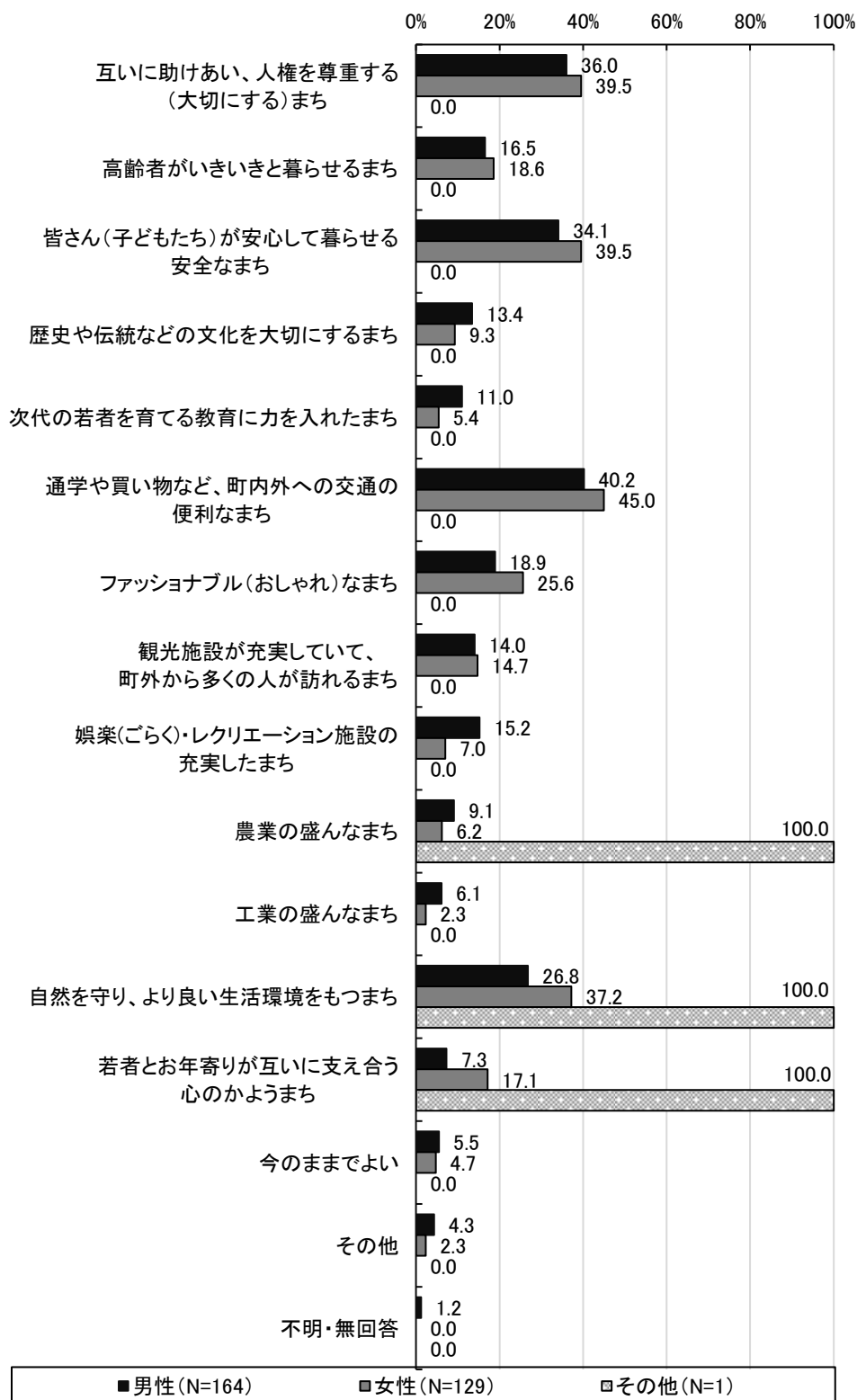
■問11×学年別

学年別にみると、「ファッショナブル（おしゃれ）なまち」では『中学1年生』が、「若者とお年寄りが互いに支えあう心のかようまち」では『中学2年生』が、「通学や買い物など、町内外への交通の便利なまち」では『中学3年生』が他の学年より高くなっています。



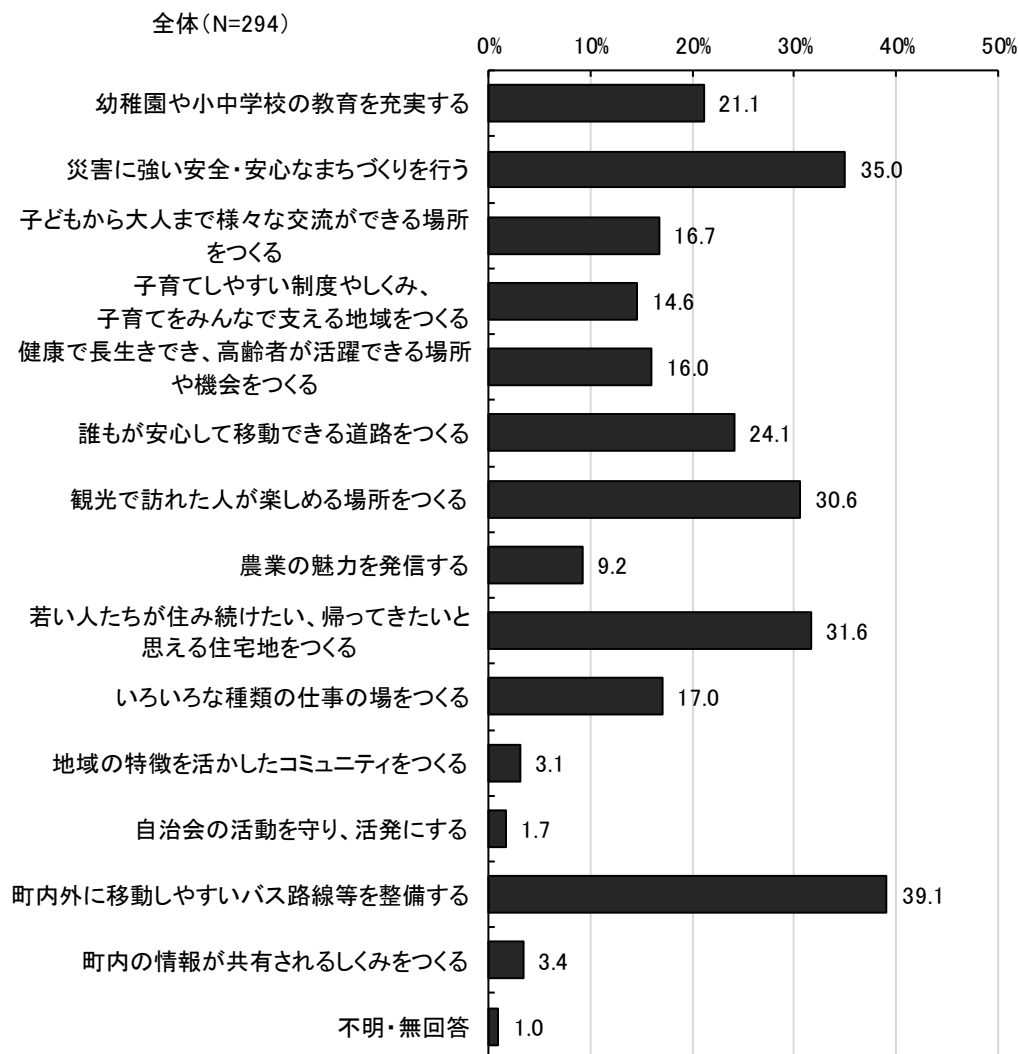
■問11×性別

性別にみると、「娯楽（ごらく）・レクリエーション施設の充実したまち」では『男性』の方が、「ファッショナブル（おしゃれ）なまち」「自然を守り、より良い生活環境をもつまち」「若者とお年寄りが互いに支え合う心の通うまち」では『女性』の方が高くなっています。



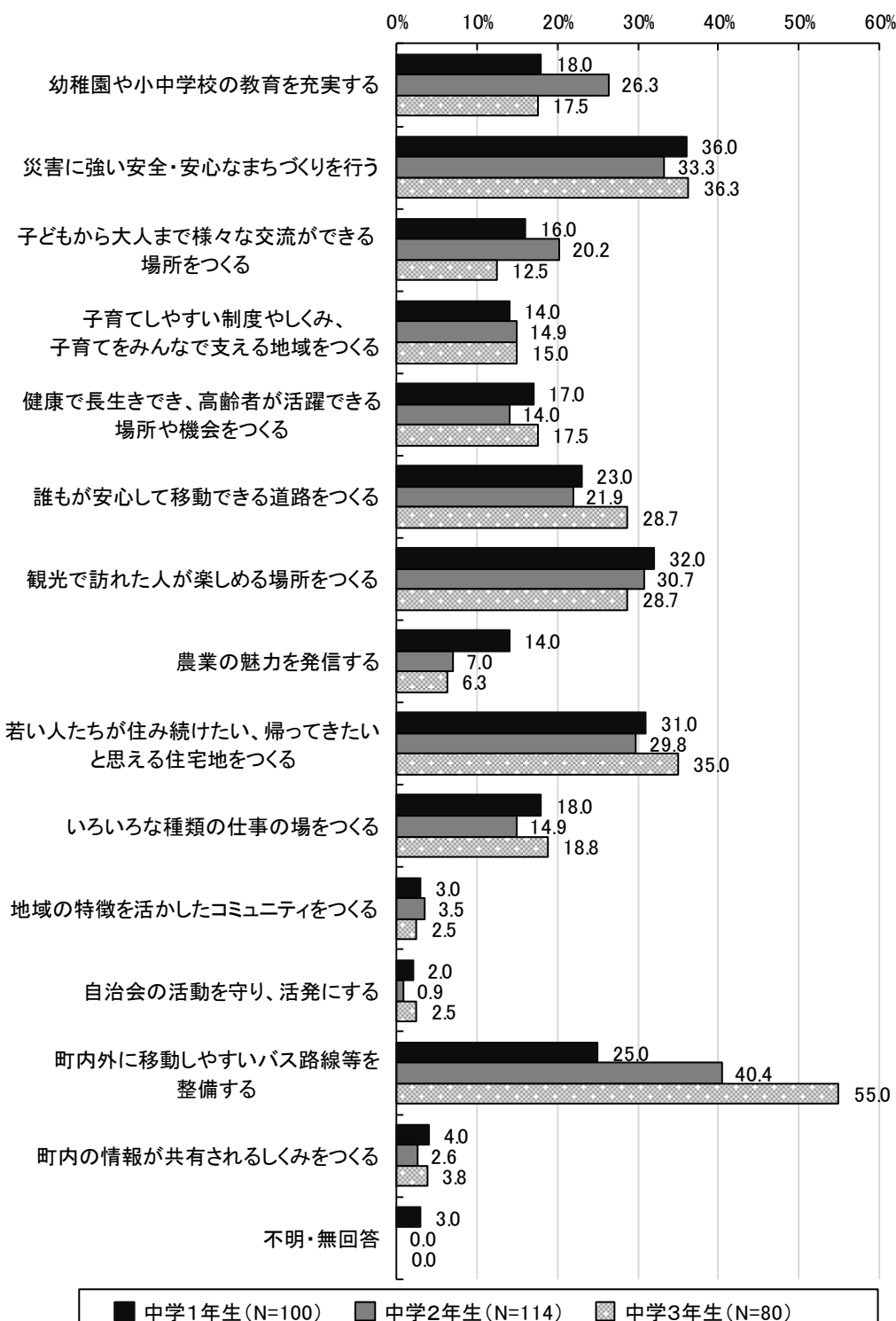
問12：今後、竜王町が力を入れるべきことはどんなことだと思いますか。（MA）

「町内外に移動しやすいバス路線等を整備する」が 39.1%と最も高く、次いで「災害に強い安全・安心なまちづくりを行う」が 35.0%、「若い人たちが住み続けたい、帰ってきたいと思える住宅地をつくる」が 31.6%となっています。



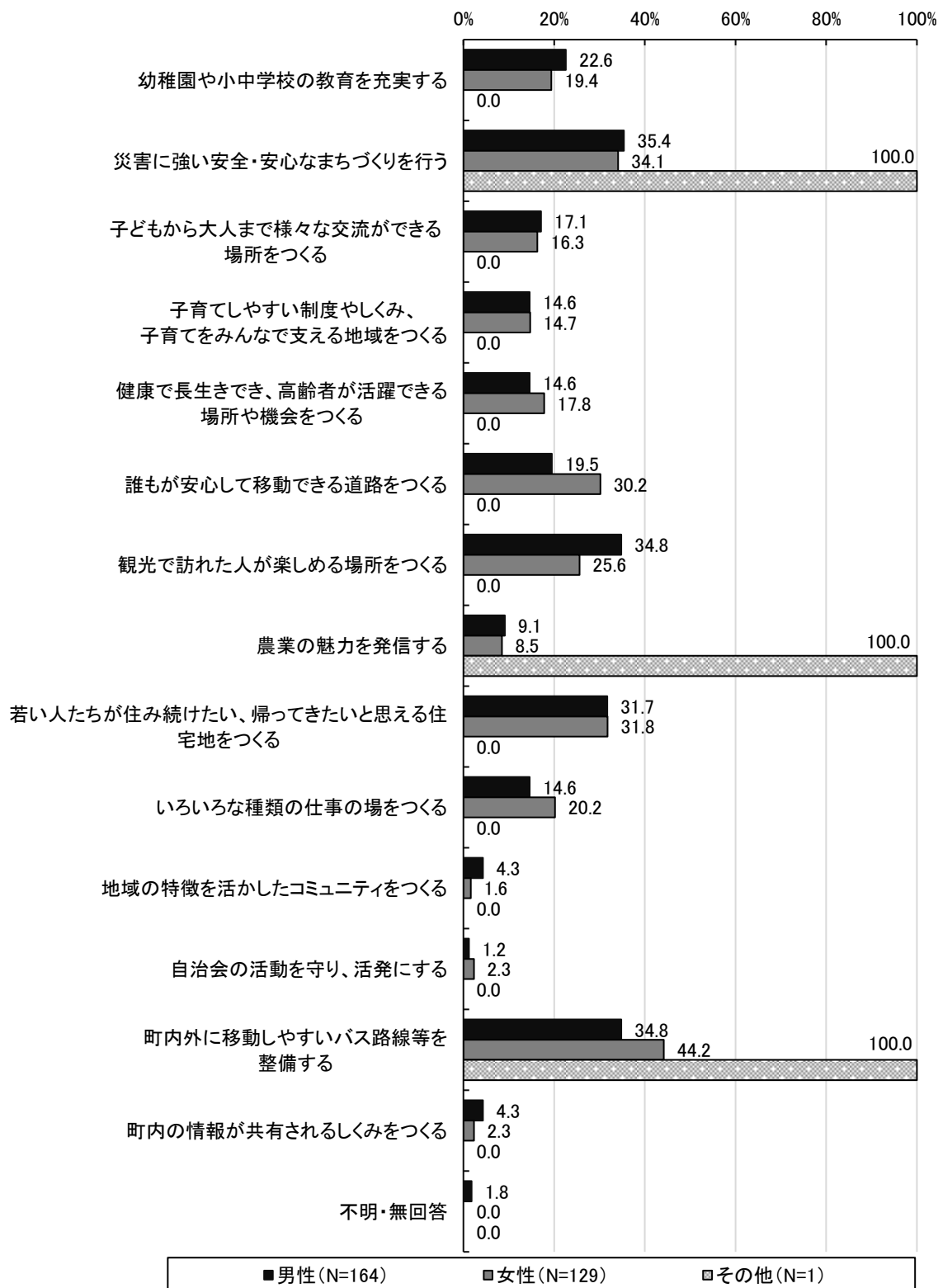
■問12×学年別

学年別にみると、「観光で訪れた人が楽しめる場所をつくる」では『中学1年生』が、「幼稚園や小中学校の教育を充実する」では『中学2年生』が、「町内外に移動しやすいバス路線等を整備する」では『中学3年生』が他の学年より高くなっています。



■問12×性別

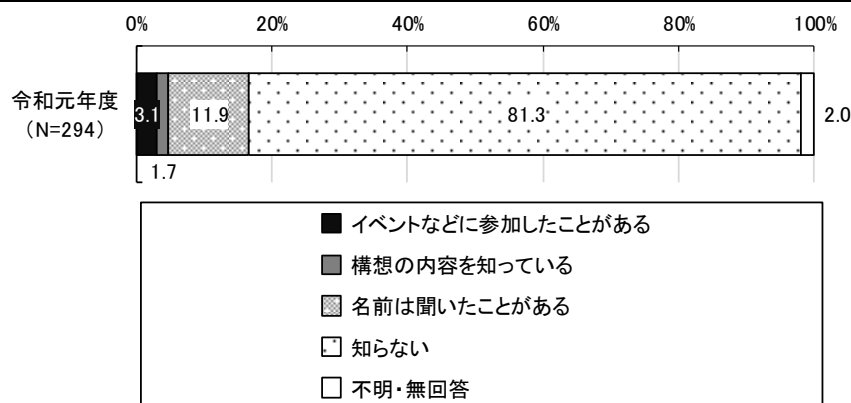
性別にみると、「観光で訪れた人が楽しめる場所をつくる」では『男性』の方が、「町内外に移動しやすいバス路線等を整備する」では『女性』の方が高くなっています。



問13：あなたは、竜王町が積極的に進めている次の事業について知っていますか。
(MA)

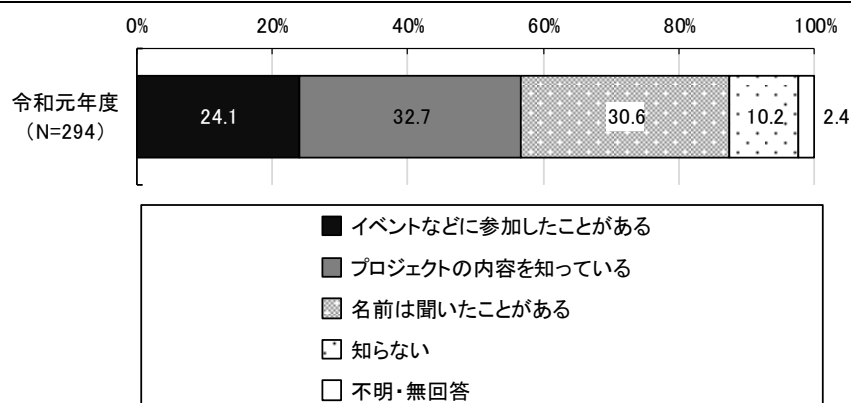
① コンパクトシティ化構想

「知らない」が 81.3%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがある」が 11.9%、「イベントなどに参加したことがある」が 3.1%となっています。



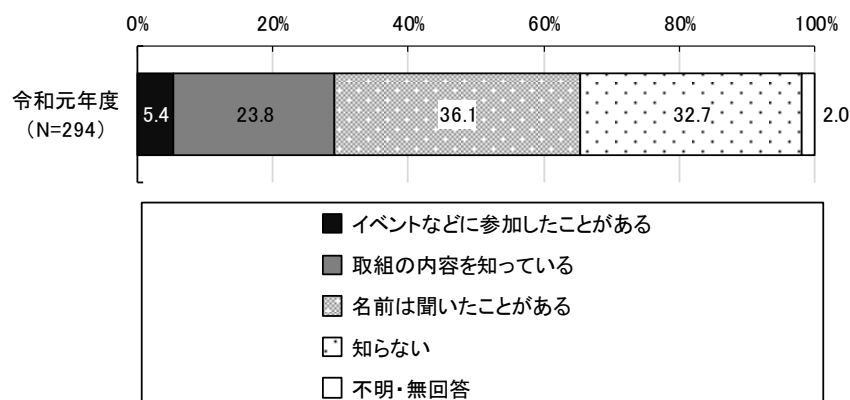
② 竜王まると「スキヤキ」プロジェクト

「プロジェクトの内容を知っている」が 32.7%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがある」が 30.6%、「イベントなどに参加したことがある」が 24.1%となっています。



③ 竜王ベジ7チャレンジ

「名前は聞いたことがある」が 36.1%と最も高く、次いで「知らない」が 32.7%、「取組の内容を知っている」が 23.8%となっています。



問14：あなたは、どのようなまちをめざしますか。また、実現するためにはどうしたらよいと思いますか。アイデアや意見を自由にお書きください。

アイデアや意見(主なもの)
交通の便利なまち、交通手段を増やす、バスを使いやすくする、駅をつくる
安心・安全なまち、治安が良い、災害がない、街灯の設置
自然あふれるまち、自然を守る、自然を活かす
商業施設の充実したまち、買い物できる場所や飲食店を増やす
遊び場がたくさんあるまち、遊べる場所を増やす、娯楽施設をつくる
観光に力を入れる、竜王町のことをもっと知ってもらう
きれいなまち、ゴミがないまち

Ⅲ. 調査結果からの考察

1. 竜王町について（問4～問5）

竜王町が好きかについては、「好き」と「まあまあ好き」の合計は8割を超えており、平成26年度調査と比較すると増加しています。学年別では、「中学2年生」が最も高くなっています。

好きな理由については、自然環境や治安の良さなど落ち着いた住環境とともに、特産品や伝統的な祭り、商業施設（アウトレット）・公共施設など町のシンボルが挙げられています。一方で、好きでない理由については、公共交通の不便さや娯楽施設の少なさ、町内に高校がないことなどが挙げられています。

竜王町に住んでいて自慢できるものについては、竜王町が好きな理由と同様、自然環境や治安の良さ、伝統文化や商業施設・公共施設などが挙げられています。

2. 定住意向について（問6）

竜王町に住み続けたいかについては、「住み続けたい」と「進学や就職で一旦離れても、いつかは竜王町に戻って住みたい」の合計は5割を超えていますが、平成26年度調査と比べると町への定住意向は低下しています。学年別では、学年が上がるにつれて町への定住意向は低くなっており、町外への進学や就職を意識していることがうかがえます。愛着度別にみると、町が好きなほど町への定住意向が高く、また、住み続けたい理由については、生まれ育ったまちであることが挙げられており、郷土愛を醸成することが定住やUターンにつながっていることがうかがえます。

一方で、住み続けたくない理由については、交通や生活の不便さ、活気が無いなどが挙げられており、これらの内容が若者の町外への転出要因となっていることがうかがえます。

竜王町を離れる場合、戻ってきたい時期については、「わからない」に次いで、結婚や就職、両親や祖父母との同居が挙げられており、結婚や就職の時期に合わせた取組や、家族との同居を支援する取組がUターンを促進すると考えられます。

3. 就きたい職業・仕事について（問8）

将来、就きたい職業・仕事については、オフィス分野、子育て分野が多く挙げられており、平成26年度調査と比べると職業・仕事の分野の希望に変化がみられます。性別にみると、男性ではオフィス分野やものづくり分野、女性では医療・保健分野、子育て分野、販売分野が多く挙げられています。

将来的な流出を防ぐためには、こうした希望に合う雇用の確保が必要であると考えられます。

4. 地域活動について（問9～問10）

地域活動への参加状況については、「現在、参加している」が最も高くなっていますが、平成26年度調査より低下しています。愛着度別にみると、竜王町が『好き』である場合、地域活動に参加している割合が最も高く、地域活動への参加状況は町への愛着度と関わっていることがうかがえるため、地域コミュニティの維持のためにもより一層の郷土愛の醸成が必要です。

自分たちが地域の中で特に取り組んでいかなければいけないことについては、防災活動や防犯活動が多く挙げられており、安全・安心なまちづくりへの意識の高さがうかがえます。また、自然保護や環境保全も挙げられており、町の環境保全に対する意識の高さもうかがえます。さらに、子育ての支援についても多く挙げられており、町内で進んでいる少子化に対しても意識を持っていることがうかがえるため、関心の高い地域活動への参加を後押しできるような取り組みを進める必要があります。

5. 竜王町の将来像について（問11～問12）

希望する竜王町の将来像については、「通学や買い物など、町内外への交通の便利なまち」「互いに助けあい、人権を尊重する（大切にする）まち」が多く挙げられており、交通の利便性や町に住む人を大切にするまちづくりが求められています。また、「皆さん（子どもたち）が安心して暮らせる安全なまち」や「自然を守り、より良い生活環境をもつまち」も挙げられており、安心して暮らしやすいまちづくりが求められています。

今後のまちづくりにおいて力を入れる内容については、交通の利便性の向上に関することや、災害に強い安全・安心なまちづくり、若者が帰ってきたい、住み続けたいまちづくりを求めることが多く挙げられており、それらの意見を取り入れながら実現していくことが求められています。